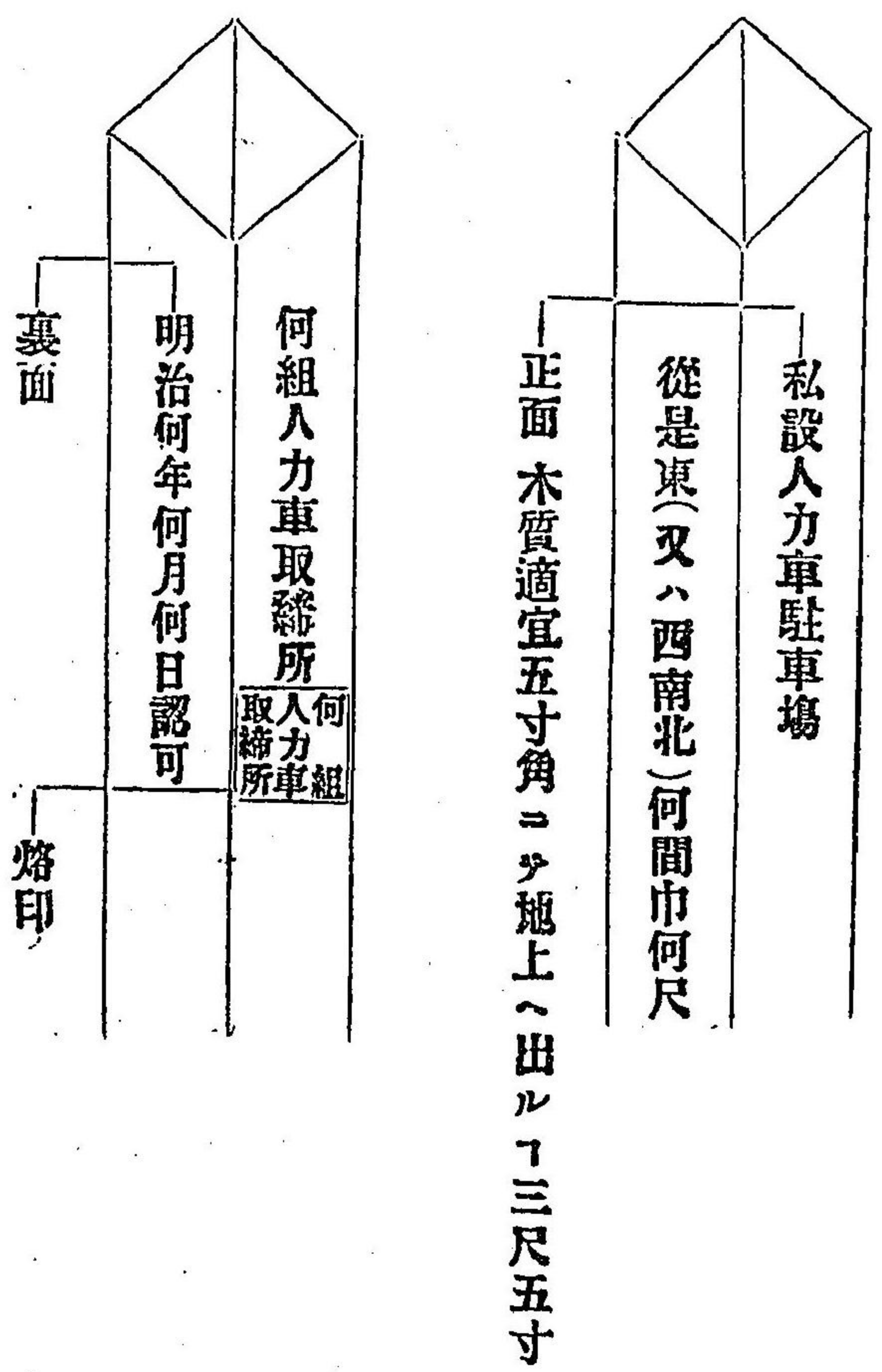


則施行ノ日ヨリ三ヶ月以内ハ營業スルコトヲ得
官(私)有地等空地ニ私設スル駐車場ノ標識雛形



此標識ハ空屋等ノ私設駐車場入口等ノ見易キケ所へ掲ケルモ
ノトス

明治何年何月何日認可

私設人力車駐車場

何組人力車取締所

何組人力車
取締所

長二尺巾七寸木質及厚サ適宜

烙印

(参考)

○縣令第一百十六號 明治二十年四月八日

來ル五月一日以後人力車ノ先轆キヲナサントスルモ
ノハ縣令第一百八號ノ人力車營業取締規則第二十一條
ニ準據シタル服裝ヲ爲シタルモノニアラサレハ之ヲ
爲スコトヲ禁ス

○宿屋取締規則

○縣令第九號 明治二十年三月三十日

宿屋取締規則別冊ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ施行

ス
(別冊)
宿屋取締規則

第一章 通 則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
 第二條 宿屋營業上ニ關スル願届書ハ總テ組合取締
 人ト連署シ所轄警察署ニ呈出ス
警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタル地ハ該分署ニ呈出ス
(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ別註ヲ加フ)
 但第五條第八條第十條第十八條第三十五條第三
 十九條第四十一條ノ諸届ニハ取締人ノ連署ヲ要
 セス
 第三條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類並ニ族
 籍住所氏名年齢ヲ記シタル書面ニ客室用ノ建物坪
 數及ヒ間取ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ願出免許ヲ請
 フヘシ
 但新築又ハ修繕ニ係ルモノハ落成期日ヲ豫定シ
 願書ヘ付記スヘシ

第四條 木賃宿營業ハ一定ノ場所ノ外ニ於テ營業ヲ
 爲スコトヲ得ス
 但其場所ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 免許ヲ得タル宿屋ニシテ其間取坪數ヲ増減
 變更セントスルトキハ圖面ヲ添ヘ届出ヲ認可ヲ受
 クヘシ

第六條 營業者退隱又ハ死亡等シタルトキ引續キ營
 業ヲ爲サントスル者ハ其營業相續者ニ於テ三十日
 以内ニ願出免許ヲ請フヘシ

第七條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨届出ツヘ
 シ

第八條 客室ノ新築摸樣換又ハ修繕落成シタルトキ
 ハ届出ヲ檢査ヲ受クヘシ
 第九條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ免許ヲ與ヘス又營業
 免許ヲ得タル後ト雖モ第二項ニ觸レタルトキハ其
 免許ノ効ヲ失フヘシ
(二十年縣令第三百三十六號ヲ以テ本條
 中又營業以下ノ三十三字追加)
 一 白痴瘋癲又ハ未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二強窃盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタル者
 又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
 三風俗ヲ紊ル可キ所爲アリト認ムル者
 第十條 允許ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ開業セス
 又ハ新築ニ係ルモノニシテ豫定期日内ニ落成セザ
 ルトキハ其事由ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ
 第十一條 營業者ニ於テハ第九條ノ二項ニ觸ル、者
 テシテ營業ニ關預セシムルコトヲ得ス
 第十二條 宿屋ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ
 夜中標燈ヲ以テ之レニ代フヘシ
 第十三條 宿引ヲ出シ又ハ他人ト馴合客ヲ誘引スヘ
 カラス
 第十四條 宿泊人ノ誹謗ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ
 濫リニ室内ヘ入ラシム可カラス
 第十五條 賭博或ハ賣淫ニ類スル所業ハ勿論宿泊人
 ノ依囑タリト雖モ藝娼妓又ハ酌取女等ヲ招聘ス可
 カラス

第十六條 午後十二時ヲ過キ放歌喧噪等他客ノ安眠
 ナ妨クルノ事ヲ爲サシム可カラス
 第十七條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等
 其求メニ應シ懇切ニ取扱フ可シ
 第十八條 宿泊人變死ニ罹リ又ハ急病ニテ醫師ノ治
 療ヲ受クル猶豫ナク死亡シタルトキ或ハ所持品ヲ
 紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查駐
 在所若クハ巡行ノ巡查ヘ届出ツヘシ(二十二縣令第二十
 九號ヲ以テ巡查派出
 所ノ五字ヲ削リ居住所
 トアルヲ駐在所ト改ム)
 第十九條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有
 物ヲ受領スヘカラス
 第二十條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ其求メニアラザ
 ル酒食ヲ供シ又ハ強ユヘカラス
 第二十一條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル要件ハ帳場
 及客室ニ掲示スヘシ
 第二十二條 警察官吏ハ臨時宿泊人ヲ調査スルコト
 アルヘシ

第二章 營業組合

第二十三條 營業者ハ所轄警察署分署ノ區畫ニ從ヒ組合ヲ設ク可シ其組合ニ入ラサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

但組合ハ便宜ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ數區ヲ合併シテ一組トナスコトヲ得

第二十四條 營業者ハ組合中ヨリ正副取締人各壹名ヲ公撰シ且組合申合規約ヲ定メ所轄警察署

警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタル地ハ該分署ニ由リ認可ヲ受クヘシ(二十二年令第二十九號ヲ以テ)

但正副取締人其任ニ適セスト認ムルハ臨時改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ一營業上ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ヘ告示スル事

二組合營業者ノ願屆書ニ連署スル事

三營業界ノ名簿ヲ製シ異動増減ヲ整理加除スル事

四組合ニ關スル經費ノ收支及ヒ決算ヲ報告スル事

五取締人撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

六前各項ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第二十六條 營業者ハ其組合ニ關スル費用ヲ負擔ス

ヘシ其收支方法ハ規約ヲ以テ定ムル者トス

第二十七條 組合規約ニ掲ク可キ事項左ノ如シ

一取締人撰舉方法及ヒ任期權限

二取締所ノ位置

三組合會議ニ關スル規約

四取締人手當及ヒ組合ニ關スル費用ノ豫算收支方法

五違約者處分方法

六前各項ノ外營業上必要ノ事項

第二十八條 左ノ各項ニ觸ル者ハ正副取締人ニ撰舉スルコトヲ得ス

一年齡二十五年未滿又ハ組合區域内ニ相當ノ土地家屋ヲ所有セサル者

二 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ得ス又ハ筆算
ヲ爲シ能ハサル者
三 民事上身代限ノ處分ヲ受ケ未タ其辨償ノ義務ヲ
果サ、ル者

第三章 旅人宿

第二十九條 旅人宿ハ十坪以上ノ客室ヲ有スル家屋
ニ於テ營業ヲスルモノニ限ルヘシ
但シ僻陬ノ村落ニ於テハ土地又ハ家屋ノ模様ニ
由リ本條及ヒ第三十條各項ノ制限ニ拘ハラズ特
ニ營業ヲ允許スルコトアルヘシ
第三十條 客室ノ構造ハ左項ニ從フヘシ
一 客室毎ニ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設ク
ル事
二 二階以上ノ客室十坪以上アルモノハ幅三尺ニ下
ヲサル階子二個以上ヲ設クル事
三 客室ハ充分ニ光線ヲ取り空氣ノ流通ヲ便ニスル
事

四 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル箇所ニ設ケ尿管容
器ハ陶器製ヲ用ヒ且其部分ハ石敲キニスル事
但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第三十一條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第三十二條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス
但同行者ハ此限ニアラス

第三十三條 正當ノ事由ナクシテ旅客ノ宿泊ヲ拒絕
スヘカラス

第三十四條 宿泊人ヨリ荷物ノ送届又ハ積入等ノ委
托ヲ受ケ之レカ周旋ヲ爲スハ固ヨリ差支ナシト雖
モ運送營業ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヘカラス

第三十五條 宿泊人ノ發着ハ書式ニ準シ毎日午後十
二時迄ニ同十二時後ノ分ハ翌日午前九時迄ニ所轄

警察署分署又ハ巡查駐在所ヘ差出スヘシ(二十年總令
第二十九號ヲ
以テ派出以下十六
字ヲ駐在所ト改ム)

但別ニ名簿ヲ製シ宿泊人發着等書式ニ準シ記入
シ該名簿ハ一ケ年間保存スヘシ

第四章 下宿屋

第三十六條 下宿屋トハ一ヶ月膳料若クハ座敷料等約定シテ他人ヲ寄寓セシムモノヲ云フ

第三十條 下宿屋トハ五坪以上客室アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第三十八條 本則第三十條ノ各項ハ下宿屋ニモ亦之ヲ適用ス

第三十九條 下宿屋ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ

其下宿人ト連署シ下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢

及ヒ下宿ノ事由ヲ記シタル届書正副二通ヲ所轄警

察署分署又ハ巡查駐在所ヘ差出シ其一通ヘ受理シ

タル官吏ノ檢印ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ(二十二年縣令第

改正) 第四十條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭

又ハ門戸ヘ掲示スヘシ

第四十一條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シ

テ其行先不分明ナルトキハ所轄警察署分署又ハ巡

査駐在所ヘ届出ツヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改訂)

第五章 木賃宿

第四十二條 宿泊人發着届出方等ハ第三十五條ノ例ニ從フヘシ

第四十三條 宿泊人滯在中外泊シタルトキハ詳細其事由ヲ名簿ニ記載シ置ク可シ

第六章 罰則

第四十四條 本則第三條第五條第六條第七條第八條

第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五

條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第

三十一條第三十三條第三十四條第三十五條第三十

九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條ニ

違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ

又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一本則ニ該當スル從來ノ宿屋及ヒ下宿屋ニシテ引續

キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以

内ニ第三條ニ據リ出願免許ヲ請フヘシ
 一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設
 ケ且取締人ヲ撰舉シ認可ヲ受クヘシ
 一客室ノ構造第三十條ニ觸ル、モノト雖モ本則施行
 ノ日ヨリ六ヶ月以内ハ營業スルコトヲ得
 一客室ノ坪數第二十九條及第三十七條ニ觸ル、者ト
 雖モ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内ハ營業スルコトヲ得
 一一定ノ場所外ニアル木賃宿ト雖モ本則施行ノ日ヨ
 リ一ケ年以内ハ營業スルコトヲ得

此名簿ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日
 マテノ分ヲ登冊又ハ數冊トナシ毎年之ヲ改
 正シ前年分ハ滿壹ケ年間之ヲ保存スルモノ
 トス用紙寸法適宜
 明治何年一月ヨリ

宿泊人發着名簿

滋賀縣近江國何郡何町村何番地
 何屋屋號アルモノハ何
 某其屋號ヲ掲ク

| | |
|-------|-------------------------|
| 宿泊人番號 | 第何號 |
| 投宿月日時 | 明治何年何月何日午前(後)第何時 |
| 前夜宿泊所 | 何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々) |
| 出立月日時 | 明治何年何月何日午前(後)第何時 |
| 行先地名 | 何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々) |
| 相貌ノ別徵 | 額上ニ何寸許ノ刀傷痕アリ(又ハ何々) |
| 住所 | 何府縣何國何郡區何町村何番地 |
| 身分 | 華士族平民(又ハ神官僧侶等ノ別) |
| 職業 | 何々 |
| 氏名年齡 | 何某 何十何年何ヶ月 |

豎曲尺三尺横同七寸厚サ并ニ木質適宜

明治何年何月何日免許

口旅人 宿下宿屋
木賃宿 屋號 氏名

用紙寸法適宜

| | | |
|-------|-------------------------------------|------------|
| 明治何年 | 宿泊人届 | 何郡何町村何番地族籍 |
| 何月何日 | 何屋 <small>屋號アルモノ ハ屋號ヲ掲ク</small> | 何某(印) |
| 宿泊人番號 | 第何號 | |
| 投宿月日時 | 何月何日午前(後)第何時 | |
| 住所 | 何府縣何國何郡區何町村何番地又ハ(何々方同居) | |
| 身分 | 華士族平民(又ハ神官僧侶又ハ何々) | |

| | |
|-------------------------|-------------------------|
| 職業 | 何職又ハ何々(官吏ナレハ奉職廳及ヒ官名ヲ記ス) |
| 氏名年齢 | 何某何年何ヶ月 |
| 前夜宿泊所 <small>氏名</small> | 何府縣何國何郡區何町村何番地何某方 |
| 宿泊ノ事由 | 何々ノ爲メ |
| 行先地名氏名 | 何府縣何國何郡區何町村何番地何某方(又ハ歸宅) |
| 相貌別徴ノ有無 | 額上ニ刀傷痕又ハ何々部ニ黒子アリ(又ハ何々) |

(全上)

| | | |
|-------|--------------------------------------|------------|
| 明治何年 | 宿泊人出立届 | 何郡何町村何番地族籍 |
| 何月何日 | 何屋 <small>屋號アルモノハ 其屋號ヲ掲ク</small> | 何某(印) |
| 宿泊人番號 | 前日投宿シタルモノ、番號ヲ掲ク | |
| 氏名 | 前日宿泊シタルモノ、氏名 | |
| 出立月日時 | 何月何日午前(後)第何時 | |

| | |
|------|-------------------------|
| 行先地名 | 何の縣何國何郡區何町村何番地何某方(又ハ歸宅) |
| 同上 | 同上 |
| 同上 | 同上 |
| 同上 | 同上 |
| 同上 | 同上 |

(參考)

○告示第五十三號 明治二十年三月三十日
縣令第九號宿屋取締規則第一章第四條ノ木賃宿營業場所左ニ示ス

滋賀郡上片原町、下片原町、大谷町、追分町、藤尾村ノ内字横木、衣川村、北小松村
栗太郡草津村ノ内字横町南裏
野洲郡吉身村ノ内字ハイアカリ
甲賀郡水口村ノ内字片町、松原町、林口村ノ内字門ノ外

石部村ノ内字繩手町、東清水町、土山村ノ内字瀧町中ノ街道
蒲生郡繩手町、長光寺ノ内字横町、武佐村ノ内字鳥居前、石原村
神崎郡八日市村ノ内字堂ノ森
愛知郡愛知川村ノ内字繩手
犬上郡外船町東ハ上野下町四ハ小道具町ヲ限トス高宮村ノ内字向川原
坂田郡西三ツ矢町、郡上町、春照村、柏原村、醒井村、番場村ノ内字番場鳥居本村、米原村
東淺井郡速水村ノ内字北町、郡上村ノ内字町間第四百五十五番地ヨリ以北兩側
伊香郡木ノ本村ノ内字十善寺、柳ヶ瀬村ノ内字北大門
西淺井郡鹽津濱村ノ内字東ノ内千五十番地以東
高島郡海津町ノ内字中村町、保坂村、今津村ノ内字北濱、安井川村ノ内字河原市、勝野村ノ内字打風、市場村ノ内字下市、古屋村

運送營業取締規則

百

○運送營業取締規則

○縣令第一百十號 明治二十年三月三十日

運送營業取締規則別冊ノ通相定來五月一日ヨリ施行ス

(別冊)

運送營業取締規則

第一章 總 則

第一條 運送營業トハ水陸運送諸負及廻漕人馬繼立并ニ小飛脚ヲナスモノナク云フ

第二條 前條ノ營業ヲナサントスルモノハ組合取締人ノ連署ヲ要シタル書面ヲ以テ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但支店若クハ取扱所ヲ設ケ又ハ廢業代換改名轉居等ノ節ハ本條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第三條 營業人ハ左ノ割合ニ依リ身元金ヲ組合取締所ヘ差出スヘシ

但支店ノ身元金モ本條ニ準ス

一ヶ年營業取扱金高貳千圓以上身元金百圓

同 千圓以上同 七拾圓

同 五百圓以上同 五拾圓

同 同 三百圓以上同 三拾圓

同 同 貳百圓以上同 貳拾圓

同 同 貳百圓未滿同 拾圓

第四條 身元金ハ開業出願ノ際差出其金額ヲ願書ニ記載スヘシ

第五條 身元金ハ廢業シ又ハ免許ノ効ヲ失ヒタルト

キハ之ヲ還付ス

第六條 身元金ハ營業上ニ關シ他人ニ損害ヲ與ヘタルト

キハ其辨償ニ充用セシムヘシ

第七條 身元金ニ欠額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ

之ヲ完納スヘシ其欠額ヲ納メサルトキハ營業免許

ノ効ヲ失フヘシ

第八條 營業人開業免許ヲ受ケタルトキハ組合取締

所ヘ申出營業鑑札ヲ受クヘシ

但營業鑑札ハ賣買貸借スヘカラス

第九條 營業鑑札ハ毎年二月組合取締所ノ檢印ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ無効トス

第十條 營業鑑札ヲ毀失シ又ハ代換改名轉居等ノ節ハ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ

但廢業又ハ組合ヨリ除名セラレタル時ハ返還スヘシ

第十一條 營業人ハ組合取締所ノ檢印ヲ押捺シタル業名標ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第十二條 營業人ハ組合ニ係ル費用ヲ負擔スヘシ

第十三條 營業人ハ組合規約ニ定ル貸錢手數料等ノ外要求スヘカラス且其定額ハ衆人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十四條 營業人ハ米質改良組合取締規則及組合規約ニ違背セル米穀運送ノ委託ヲ受クヘカラス

第十五條 營業人ハ運送物ニ審ト見認ムルモノアリ

縣令第三百三十七號ヲ以テ追加

(二十年)

ル時ハ警察官吏ニ密告スヘシ

第二章 營業組合

第十六條 營業人ハ一ノ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入ラサルモノハ運送營業ヲナスコトヲ得ス

第十七條 營業人ハ滋賀郡天津便宜ノ地ニ組合取締所ヲ設ケ又取締上必要ノ地ニ出張所ヲ設クヘシ

第十八條 取締所ニ正副取締人各一名出張所ニ副取締人一名宛ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但便宜地區ヲ定メ總代人ヲ置クコトヲ得

第十九條 組合ニ於テハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

一取締所及出張所ノ位置

一取締人撰擧法及任期

一取締人事務條項及權限

一組合ニ係ル費用ノ豫算及徵收方法

一組合會議ニ關スル規程

一諸貸錢手數料等ノ定額

- 一身元保管法
- 一物貨取扱法
- 一備人及稼業人ニ關スル規程
- 一損害賠償ノ方法
- 一違約者處分法
- 一前各項ノ外營業上必要ノ件
- 第二十條 取締人ハ丁年以上ノ男子ニシテ縣下ニ本籍ヲ有シ且ツ名望ト相當ノ財産ヲ有スル者タルヘシ
- 第二十一條 取締人被撰者中適任ノ者之レナキカ又ハ撰任後不適任ト見認ルトキハ改撰ヲ命ス
- 第二十二條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項概テ左ノ如シ
- 一組合營業人ノ願届書等ニ連署スル事
- 一組合營業人名簿ヲ製シ増減異動アル毎ニ訂正加除スル事
- 一組合營業人ヘ費用ノ決算報告ヲナス事
- 一運送營業上ニ關シ意見ヲ縣廳ヘ具申スル事

- 一違約者ヲ處分スル事
- 一前各項ノ外取締上ニ關スル一切ノ事務及組合規約ニ於テ定メタル事項ヲ取扱フ事
- 第三章 運送請負營業
- 第二十三條 運送物ノ荷造粗造ニシテ運送中濡沾漏脱等ノ難ヲ防ク能ハサルト思慮スル時ハ荷主ヲシテ改造セシムヘシ
- 第二十四條 送狀ヲ添付セサル運送物ハ取扱フヘカラス又送狀ニハ左ノ各項ヲ詳記セシムヘシ
- 一荷主及届先ノ住所姓名並ニ差出年月日
- 一物品ノ種類價格及個數斤量
- 一賃錢ノ拂方(前拂先拂等)及運送方(馬車便漚船積和船積等)ノ區別
- 前各項ノ外運送上必要ノ件
- 第二十五條 運送物ヲ受取タルトキハ前條ニ倣ヒ詳記シタル受取証ヲ渡スヘシ
- 第二十六條 運送物他ヨリ到着セシ時ハ損害ノ有無

等ヲ點檢シ若シ異狀アリト思慮スルモ外面ヨリ認
メ難キトキハ組合役員ノ檢査ヲ經其事由ヲ記シタ
ル書面ニ証印ヲ受ケ送狀ニ添付發送スヘシ
第二十七條 到着セシ運送物ニ損害アル時ハ組合役
員ノ檢査ヲ受ケ其狀況ヲ詳記シタル書面ニ証印ヲ
受ケ添付發送スヘシ
第二十八條 組合役員ニ於テ前條檢査ヲナシタルト
キハ其繼越タル地ノ組合役員ヘ急報スヘシ其急報
ヲ受ケタル組合役員ニ於テハ速ニ其事由ヲ取調差
立元營業人及荷主ヘ發送スヘシ
第二十九條 營業人ハ各一様ナル繼立帳ヲ製シ運送
物ノ種類員數價格賃錢發着時刻及損害ノ有無等ヲ
記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ
第三十條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ
取扱フヘシ
但別段荷主ノ承諾ヲ經テ變更スルハ此限ニアラ
ス

第三十一條 前各條ノ外別段成規アルモノハ其成規
ニ從フヘシ
第四章 廻漕營業
第三十二條 荷物ノ積卸及廻漕中濡沾破損等之レナ
キ様丁寧ニ取扱フヘシ
第三十三條 廻漕中荷主ノ承諾ヲ經スレテ他ノ營業
人ト荷替ヲナスヘカラス
第三十四條 營業人ハ陸路運送ノ依托ヲ受クヘカラ
ス
第三十五條 廻漕中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ
所業ヲナスヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ廻漕ヲ
ナスヘカラス
第三十六條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從
ヒ取扱フヘシ
但別段荷主ノ承諾ヲ經タルモノハ此限ニアラス
第三十七條 營業人ハ各一様ナル帳簿ヲ製シ運送物
ノ種類員數價格賃錢及受授ノ時日等ヲ記載シ後日

ノ憑據ニ供スヘシ

第三十八條 本章ニ掲クル外第三章第二十二條第二十三條第二十四條第三十條ヲ遵守スヘシ

第五章 人馬繼立營業

第三十九條 營業人ハ各一様ナル繼立帳ヲ製シ繼立ノ都度賃錢及繼立地名並ニ稼業人ノ姓名等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十條 謂レナク繼立ヲ拒ミ又ハ故ナク遅緩スヘカラス

第四十一條 繼立ニ使用スル人足ヘハ營業人ヨリ其雇ハタルノ証票ヲ渡シ之ヲ携帯セシムヘシ

第四十二條 繼立ノ順序ハ急行ヲ除クノ外申込ノ前後ニ從フヘシ

第四十三條 人足途中ニ於テ荷物ニ損害ヲ與フル等ノ事アル時ハ營業人其責ニ任スヘシ

第六章 小飛脚營業

第四十四條 營業人ハ平素運送スル地名ヲ組合取締

所へ届出且重ナル地名ヲ業名標ニ記入スヘシ
第四十五條 營業人ハ各地繼立ヲ要スル荷物ノ運送請負スヘカラス

第四十六條 荷物ノ受渡ハ必ス帳簿ニ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十七條 平素發送時日ヲ定メオクモノハ必ス其日時ニ發送スヘシ

第四十八條 發送ノ途中他ノ營業人ノ荷替ヲナスヘカラス

第四十九條 業營上ニ使用スル雇人ノ姓名年齢等ハ組合取締所へ届置クヘシ

第七章 罰 則

第五十條 此規則第二條第三條第八條第十條第十一條第十三條第十四條第二十九條第三十條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條第四十一條第四十四條第四十五條第四十六條第四十八條第四十九條ニ違背スルモ

ノハ違警罪トシ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(二十年縣令第三百三十七號ヲ以テ改正)

附則

一從來ノ營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出許可ヲ受クヘシ一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及規約ヲ設ケ且取締人ヲ擧シ認可ヲ受クヘシ

竪曲尺三寸横同七寸厚並ニ木質適宜

竪曲尺四寸横同三寸紙質適宜

| | |
|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 何々營業 住所 氏名 取締所烙印 | 年月日 何々營業鑑札 滋賀縣運送營業取締所 取締所印 |
|--|-------------------------------------|

| | |
|-------------------------|-------------|
| 滋賀縣近江國何郡何町村 何番地 何 | 某 |
| 明治何年 何月何日 | 、 、 、 、 、 、 |

取締所烙印

○新聞紙雜誌雜報受賣取締

○縣令第四十六號 明治二十一年二月二十四日

新聞紙雜誌雜報ノ發賣又ハ受賣營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類ヲ記載シ開業三日以前ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ若シ其種類ノ増減スルカ又ハ轉居廢業等爲シタルトキハ全樣届出ヘシ

從前營業者ニシテ猶繼續營業セントスル者ハ十日以内ニ前全樣届出ヘシ

右違犯ノ者ハ刑法第四百二十七條ノ刑ニ處ス

○威統免許取締規則

新聞紙雜誌雜報受賣取締 威統免許取締規則 百六

○甲第五十三號 明治十一年九月二十一日

本年三月甲第十一號ヲ以銃砲臨時免許取締規則相違候儀ハ山林田野植物保護ノ爲メ有害ノ鳥獸驅逐スルノ趣意ニ候處往々實地有害ノ輕重ニ論ナク只管實彈ヲ願出ルモノ多ク自然獵銃ニ紛敷等ノ弊有之候テハ不都合ニ付今般右規則相廢シ更ニ威銃免許取締規則別冊ノ通相設候尤實彈ノ儀ハ有害ノ景況不得止分ニ限リ免許スル義ニ付猥リニ實彈願出候共決シテ許可不致候條此旨布達候事

但目今免許濟ノ分ハ期限内其儘相用苦シカラス
(別冊)

威銃免許取締規則

第一條 空砲ヲ發シ田野山林等ノ植物ヲ害スル鳥獸ヲ驅逐スルヲ威銃ト云フ其免許ヲ得ント欲スルモノハ有害ノ實況及願人住所氏名年齢並ニ用銃ノ玉目等ヲ詳記シ町村長與印ノ願書ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ差出シ免許鑑札ヲ受クヘシ免許ヲ受ケス

發砲スルヲ許サス(二十二年縣令第百二十一號ヲ以テ改正)

第二條 若シ空砲ヲ以テ驅逐スルコト能ハス據ナク實彈ヲ以テ殺除セント欲スルモノハ其實況ヲ詳記シ場所ヲ指定シ前條ノ手續ヲ以テ所轄警察署ヘ願出ヘシ實地審査ノ上相當ノ期限ヲ定メ臨時免許鑑札ヲ下付スヘシ免許ヲ受ケス實彈ヲ發スルコトヲ許サス(全上)

但滿期ノモノハ戶長與印ノ屆書ヲ以テ速カニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 免許鑑札ハ一人一己ノ用ヲ爲スモノニ付子弟又ハ雇人等ヲシテ發砲セシメント欲スルモノハ出願ノ際其肩書氏名年齢ヲ詳カニシテ願書ニ連署捺印セシムヘシ調査ノ上一々免許鑑札ヲ付與スヘシ

第四條 免許鑑札所持ノモノ居所移轉スレハ該鑑札書換願出スヘシ若シ死亡スレハ速カニ返納スヘシ

第五條 免許鑑札ハ賣買又ハ貸借スルコトヲ許サス

第六條 水火盜難其他事故ニ依リ免許鑑札ヲ毀失ス

ル片ハ其事由ヲ以テ更ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第七條 空砲實彈ノ別ナク明治十年第十一號公布鳥獸獵規則第七條ニ記列シタルモノハ免許鑑札ヲ付與セサルハ勿論左ニ記列スル場所ニ於テハ實彈ヲ發スルヲ許サス

- 一 市街ハ勿論衆人群聚ノ場所
- 一 銃丸ノ達スヘシ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所及ヒ社寺人家等ノ構内
- 一 禁獲制札ノ場所
- 一 日没ヨリ日出マテノ時間
- 一 指定スル免許場所ノ外

第八條 和銃ハ玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍用銃ヲ用ルヲ許サス

第九條 發砲ノ爲メ山野ニ出ル片ハ必ス免許鑑札ヲ携帯スヘシ若シ鑑札ヲ看ント請フ者アル片ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條 此規則第一條第五條ニ違背スル者ハ違警罪

トシ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第二條第七條第八條ニ違背スル者ハ同三日以上十日以下ノ拘留又壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス可シ(十五年甲第四百十三號布達ヲ以テ改正)

免許鑑札雛形左ノ通本製鑑札(二十二年縣令第百二十二號ヲ以テ删除)

○屠場取締規則

○縣令第百七十一號 明治二十年八月十六日

屠場取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

屠場取締規則

第一條 屠場ハ自用ト販賣トヲ問ハス牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス其場外ニ於テハ一切之ヲ屠殺スルコトヲ許サス

但屠場ノ免許ヲ受ケタル者ト雖モ其肉ヲ販賣セント欲スルトキハ獸肉販賣取締規則ニ據ルヘキハ勿論トス

第二條 屠場ヲ新設セント欲スル者ハ別紙書式ニ照準シタル願書ニ(借地ナラハ其地主連署シ)接續地主ノ承諾書及其位置並ニ構造ノ各圖面工事仕様書ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造ヲ増減變換セントスルトキモ亦同シ(二十二縣令第五十九號ヲ以テ挿入改正)

但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第三條 屠場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人(借地ナラハ其地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ直チニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(上全)

第四條 改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(二十二縣令第五十九號ヲ以テ又ハ分署ノ四)

第五條 屠場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ
一屠場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ルコト直徑六十間以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水

ニ障害ナキ地ニ限ルヘシ

二屠場ハ三百坪以上ノ地ニシテ水ノ供給充分ナルヲ要ス

三屠場ノ周圍ニハ高サ六尺以上ノ土手又ハ塙塀木柵等ヲ設クヘシ

四屠場内ニハ屠室屠畜繫留所檢査官詰所及相當ノ構造ヲ要シタル兩便所等ヲ設クヘシ

五屠室ハ地盤ニ石ヲ敷設シ「セメント」ニテ其繼目ヲ密接シ石又ハ漆喰敲ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其内部ノ周圍ハ石造煉瓦造ニ係ルモノ、外厚板ヲ張り亞鉛板ヲ以テ之ヲ蔽ヒ屋上ニハ空氣ノ放散スヘキ裝置ヲナシ周圍ノ上下ニ數箇ノ窓ヲ設ケ以テ光線ノ射入空氣ノ通暢ヲ能クスヘシ

六屠畜繫留所ノ地盤ハ前項ニ準シテ構造シ其糞尿等ハ糞尿溜ニ通セシムヘシ
但地盤ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トナスモ妨ナ

七汚物溜糞尿溜ハ磁器ノ類ヲ用非若クハ周圍底面
トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敷其他不滲透質ノモノ
ヲ以テ之ヲ構造シ底面ハ中心ニ向テ勾配ヲ付シ
且相當ノ屋壁若クハ覆蓋ヲ設クヘシ
八屠室外ニ屠畜ノ臟腑等ヲ取扱フヘキ場所ヲ設ケ
其地盤ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敷トナシ且屋根ヲ
設クヘシ

第六條 前條構造落成ノ上ハ所管警察署又ハ分署ニ
届出檢査ヲ受クヘシ檢査ノ上許可ヲ與フルニ非サ
レハ使用スルヲ得ス(二十二年縣令第五十九號ヲ
以テ又ハ分署ノ四字挿入)
第七條 屠場ノ入口ニハ左ノ離形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何村何番字何
口屠場
明治何年何月何日免許 何郡何村何番屋敷
氏名

用材適宜
豎四尺
横一尺

第八條 屠場ハ日々掃除シ居室及溝筋ハ屠殺終リタ
ル毎ニ洗淨ス可シ

第九條 臟腑皮骨ノ類及血液汚水汚物ノ類ハ其都度
之ヲ取除クヘシ

第十條 免許ヲ得タル屠場ト雖モ實際障害アルヲ發
見シタルトモ又ハ改作修繕ノ命ニ従ハサルトモキハ使
用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 屠場主ハ屠殺ノ前日其種類頭數牝牡及買
入先キ等ヲ記シ且屠畜税金納濟ノ証ヲ添付シ所管
警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ(二十二年縣令第五
十九號ヲ以テ且
屠畜以下添付シ
マテノ十三字挿入)

第十二條 屠殺シタル獸肉ニハ檢査官ニ就テ檢査濟
ノ印記ヲ受クヘシ

第十三條 屠殺シタル肉ヲ屠場外ニ運搬スルトモキハ
清潔ナル麻布等ニテ包ミ之ヲ暴露セシムヘカラス

第十四條 檢査官ニ於テ病獸又ハ食用ニ害アリト認
メタル肉ハ其屠殺若クハ販賣ヲ禁止スルコトアル

ヘシ
 但販賣禁止ニ係ルモノ、處置ハ検査官ノ指圖ニ從フヘシ

第十五條 屠場營業人ハ屠畜ノ種類ニ依リ其屠殺料ノ額ヲ定メ豫メ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クベシ其増減ヲ要スルトキモ亦同シ(二十年縣令第五十九號ヲ以テ又ハ分署ノ四字挿入)

第十六條 屠場營業人ハ何人ノ需メト雖モ正當ノ事故ナクシテ屠殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 屠場ニ於テハ牛馬羊豚ヲ除クノ外他ノ獸類ヲ屠殺シ及駱獸ヲ剖割スルコトヲ禁ス

第十八條 第二條第三條第四條ノ願屆等ニハ屠場所在地戸長ノ奧印ヲ受クヘシ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ第四條ノ下第六條トアル三字刪除)

第十九條 此規則第一條第二條第三條第四條第六條第八條第九條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

(別紙) 願書式

屠場新設願

何郡何村何番字何 何郡何村何番屋敷
 一何地反別何程 持主 氏 名

但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間
 右ノ地所ニ於テ屠場新設仕度候間御檢査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾書及位置并ニ構造ノ各圖面工事仕様書相添此段奉願候也

年號月日 何郡何村何番屋敷 願人 氏 名印

何郡何村何番屋敷 地主 氏 名印

滋賀縣知事氏名殿

○飼養ノ牛馬斃死セルトキ取扱方
 ○縣令第五百五十八號 明治二十一年十一月十三日
 飼養ノ牛馬斃死セルトキ其取扱方左ノ通相定ム
 一斃牛馬ヲ剖割營業者ニ付セント欲スルトキハ該營

業者ノ住所氏名及駱獸ノ種類牝牡毛色等ヲ詳記シ
其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

一飼主ニ於テ之ヲ焼埋却セント欲スルトキハ戸長ノ
指圖ヲ受ケ相當ノ場所ヲ撰ミ其旨所轄警察署又ハ
分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ但其割割シタル肉ハ檢
査官ノ面前ニ於テ細截シ綠礬水ニ浸漬スヘシ
右ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

○駱牛馬割割營業取締規則

○縣令第七十二號 明治二十年八月十六日

駱牛馬割割營業取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一
日ヨリ施行ス

駱牛馬割割營業取締規則

第一條 駱牛馬ヲ割割シテ營業トナサント欲スル者
ハ別紙書式ニ照準シタル願書ニ(借地ナラハ其地主
連署シ)接續地主ノ承諾書及割割場ノ位置並ニ構造
ノ各圖面工事仕様書ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署
ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造ヲ增

減變換セントスルトキモ亦同シ(二十二年縣令第五十九號
ヲ以テ本條中挿入改正)
但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承
諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第二條 割割場ヲ讓渡シタルハ讓受人(借地ナラハ其
地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ直チニ所管警察署又ハ
分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(二十二年縣令第五十
九號ヲ以テ改正挿入)

第三條 改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警
察署及ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(上全)

第四條 割割場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ
一割割場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ル一直徑六十間
以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水
ニ障害ナキ地ニ限ルヘシ
二敷地ノ周圍ニハ塙塙等ヲ設クヘシ
三割割場ハ其地盤ヲ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トシ且
汚水溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其内部ノ周圍ハ厚
板ヲ張り之ニ(ペンキ)ヲ塗ルヘシ
四汚水溜ハ割割場ニ使用シタル一切ノ汚水ヲ受ク

ル所ニシテ磁器ノ類ヲ用ヰ若クハ周圍底面トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敷其他不滲透質ノモノヲ以テ之ヲ構造シ且相當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

五汚物ヲ容ルヘキ相當ノ器具ヲ備フヘシ

六相當ノ構造ヲナシタル検査官ノ臨監場及兩便所ヲ建設スヘシ

第五條 前條ノ構造落成ノ上ハ所管警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ノ上許可ヲ與フルコト非

レハ使用スルヲ得ス(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ改正)

第六條 剖割場ノ入口ニハ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何町何番字何

口 斃牛馬剖割場

明治何年何月何日免許

何郡何町何番屋敷

氏名

用材適宜

堅四尺

横一尺

第七條 剖割場ノ内外ハ掃除洗滌ヲ怠ラヌ臭氣ノ放散セサル機殿ニ注意スヘシ

第八條 免許ヲ得タル剖割場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルモ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアル可シ

第九條 斃牛馬ヲ剖割セント欲スルトキハ其飼主ノ住所氏名ヲ具シ所管警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十條 剖割シタル斃牛馬ノ肉ハ検査官ノ面前ニ於テ直ニ之ヲ細截シテ綠礬水ニ浸漬スヘシ

但綠礬水缺乏ノ場合ニ於テハ熱湯ニ浸漬スヘシ

第十一條 斃牛馬ノ肉ヲ食用ノ爲メ販賣スルコトヲ禁ス

第十二條 免許ヲ得サル場所ニ於テ斃牛馬ヲ剖割スルコトヲ禁ス

第十三條 傳染病ニ罹リテ斃死シタル牛馬ヲ剖割スルコトヲ許サス

第十四條 第一條第二條第三條ノ願届等ニハ剖割場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘシ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ第三條ノ下(第五條)トアル三字

第十五條 此規則第一條第二條第三條第五條第九條
第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ刑法
第四百二十六條ノ刑ニ處ス
(別紙)

願書式

斃牛馬割割營業願

何郡何村何番字何 何郡何村何番屋敷
一何地反別何程 持主 氏 名

但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間

右ノ地所ニ於テ割割場取設ケ斃牛馬割割營業仕度候
間御檢査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾書
及位置并ニ構造ノ各圖面工事仕様書相添此段奉願候
也

年號月日

何郡何村何番屋敷
願人 氏 名 印
何郡何村何番屋敷

地主 氏 名 印

滋賀縣知事氏名殿

○牛馬宿又ハ飼養營業願出方

○甲第八十六號 明治十九年六月二日

市街ニ於テ營業ノ爲メ牛馬ヲ飼養シ又ハ牛馬宿ヲ營
業セントスルモノハ其位置并ニ構造等ノ圖面及四隣
接續地主ノ承諾証ヲ添へ所轄警察署へ願出許可ヲ受
クヘシ(二十二年縣令第六十
一號ヲ以本令中刪除)

但現ニ本文ノ營業ヲ爲スモノハ來ル三十日迄ニ届
出許可ヲ受クヘシ

○獸肉販賣取締規則

○縣令第七十三號 明治二十年八月十六日

獸肉販賣取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ
施行ス

獸肉販賣取締規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ獸肉トハ食用ニ供スル
牛馬羊豚ノ諸肉ヲ云フ

第二條 獸肉ヲ販賣セント欲スルモノハ所管郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
 但屠場營業人ト雖モ其肉ヲ販賣セント欲スルトキハ此規則ニ據ルヘキハ勿論トス
 第三條 獸肉販賣營業者ハ左ノ離形看板ヲ店頭ニ掲クヘシ
 免許鑑札ノ番號ヲ記載スヘシ

第何號
 ○牛(馬)(羊)(豚)肉販賣營業
 何郡何村何番屋敷
 氏名

用材檜
 豎三尺
 横七寸

第四條 前條營業者行商セント欲スルトキハ所管郡役所ヘ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ節ハ必ス携帶シ露店ヲ出ストキハ之ヲ店頭ニ表出スヘシ
 但家族雇人等ヲシテ行商ヲ爲サシムル者ハ本文ノ手續ニ據リ各自ニ鑑札ヲ受クヘシ
 第五條 飲食店等ニ於テ生獸肉ヲ其儘販賣スル者ハ

第二條ニ據リ免許鑑札ヲ願受クヘシ
 第六條 鑑札ヲ毀失シタルトキハ再渡ヲ請ヒ改氏名轉居代替等ノトキハ鑑札書換ヲ請ヒ廢棄等ノ節ハ之ヲ返納スヘシ
 第七條 腐敗ニ傾キタル肉斃死セル獸畜ノ肉屠場ノ明カナラサル肉ヲ販賣スルコトヲ禁ス
 第八條 他ノ肉ヲ偽稱シ又ハ混同シテ販賣スルコトヲ禁ス
 第九條 此規則第二條第三條第四條第七條第八條ニ違背シタルハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス
 ○牛羊乳搾取販賣取締規則
 ○縣令第五百五十五號 明治廿一年十一月十三日
 牛羊乳搾取販賣取締規則左ノ通相定ム
 但從來牛羊乳搾取營業者及請賣者ト雖モ本則ニ依リ更ニ願出ヘシ
 牛羊乳搾取販賣取締規則
 第一條 牛羊乳ヲ搾取販賣セント欲スル者ハ別紙書

式ノ願書ニ(借地ナラハ其地主連署シ)家場ノ位置並
 構造ノ各圖面及工事仕様書ヲ添ヘ(所轄警察署又ハ
 分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造
 ナ増減變更スルトキモ亦全シ但單ニ構造ノ變換ニ
 係ルモノハ地主ノ連署及位置ノ圖面ヲ要セス(二十
 縣令第五十九號
 ナ以テ挿入改正)

第二條 家場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ
 家場ハ人家ニ接セス相當ノ空地ヲ要シ且周圍ニハ
 木柵又ハ塙塙ヲ設クヘシ
 畜舎ノ地盤ハ漆喰敷トナシ其上ニ厚板ヲ敷設シ且
 尿汚水等ノ糞尿溜ニ疏通スヘキ裝置ヲナスヘシ
 畜舎ノ内部ハ周圍ニ高サ六尺以上ノ厚板ヲ張り且
 適宜ニ窓ヲ設ケテ空氣ノ通暢ヲ能クスヘシ
 糞尿溜ハ磁器ノ類ヲ用ヒ若クハ周圍底面トモ厚サ
 二寸以上ノ漆喰敷トナシ之ヲ舍外ニ設置シ相當ノ
 覆蓋ヲ備フヘシ

第三條 前條ノ構造落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署

ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ノ上許可ヲ與フルニ非
 サレハ使用スルヲ得ス(二十二年縣令第五
 十九號ヲ以テ改正)

第四條 免許ヲ得タル家場ト雖モ實際障害アルヲ發
 見シタルトキ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ
 使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條 乳牛羊ハ每頭番號ヲ付シ其產地種類牝牡年
 齡毛色等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 増減アルトキモ亦同シ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ警察署ノ下
 又ハ分署ノ四字挿入第六條第十三條第十四
 條第十六條第
 十八條皆同之)

第六條 乳牛羊分娩後初メテ乳汁ヲ搾取販賣セント
 欲スルトキハ其番號種類及分娩ノ月日ヲ記シ且
 書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第七條 乳汁ヲ搾取セント欲スルトキハ必ス乳房ヲ
 洗滌シ能ク其濕氣ヲ拭取リ汚物ノ混入セサル様注
 意シシテ搾取シ尙清潔ナル綿布ノ類ニテ濾過スヘ
 シ

第八條 乳汁ノ容器並量器ハ銅若クハ鉛製ノモノヲ

用フヘカラス且運搬中塵埃ノ混入セサル様製造ス
ヘシ尤モ使用終レハ直ニ洗滌シ極メテ清潔ニナス
ヘシ

第九條 左ノ各項ニ示シタル乳汁ヲ販賣スルハ勿論
他人ニ贈與スルヲモ之ヲ禁ス
水又ハ他物ヲ混和セシモノ
病獸ヨリ搾取セシモノ
時ヲ經テ變質シタルモノ
乳脂ヲ分取シタルモノ
分娩後一週間以内ニ搾取シタルモノ

第十條 牛羊乳搾取人請賣人配達人等ニ就キ當該官吏
ハ臨時乳汁ノ検査ヲナスコトアルヘシ

第十一條 飼養者ハ飼料ニ注意シ專ラ良好ノモノヲ
撰ムヘシ

第十二條 家場ノ内外ハ常ニ掃除シ踏糞等ハ時々取
換ヘ總テ不潔ナラシムヘカラス

第十三條 乳牛羊疾病ニ罹リタルハ速ニ獸醫ノ診斷

ヲ受ケ其番號種類ヲ記シタル書面ニ該診斷書ヲ添ヘ
所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ全癒シタルハ亦全シ
第十四條 牛羊乳ヲ請賣セント欲スル者ハ搾取營業
人連署ノ書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免
許ヲ受クヘシ
第十五條 牛羊乳搾取所ニ於テ販賣スルモノハ甲號
搾取人ニシテ別ニ販賣所ヲ設クル者及請賣人ハ乙
號雛形ノ看板ヲ門戸ニ表出スヘシ且配達ノ節ハ搾
取販賣人又ハ請賣人ニシテ自ラ配達スルト他人ヲ
シテ配達セシムルトナ問ハス總テ丙號雛形ノ木札
ヲ携帯スヘシ

甲 號

何郡何町村字何
牛(羊)乳搾取販賣所
明治何年何月何日免許
住所
氏名

木材適宜
豎三尺横八寸

乙 號

何郡何町村字何家場
牛(羊)乳販賣(請賣)所
明治何年何月何日免許

住所
氏名

同上

丙號

何郡何町村
字何家場
表
牛(羊)乳

何郡何町村何番屋敷
摺取人
請賣人 氏名

木材同上
豎二寸
横一寸
五分

第十六條 牛羊乳摺取販賣人ハ每半年各種乳汁摺取
高及其期末ノ現在乳牛羊頭數ヲ取調ヘ上半年分ハ
七月下半年分ハ翌年一月所轄警察署又ハ分署ヲ經
テ縣廳ニ届出ヘシ
第十七條 家場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人(借地ナラ
ハ其地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ直チニ所轄警察署
又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(二十二年縣令第五
十九號ヲ以テ改正)
第十八條 改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度摺取

販賣人ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ヘ請賣者
ハ所轄警察署ヘ届出ヘシ但摺取販賣人ニシテ別ニ
販賣所ヲ設ケ又ハ廢シタルトキモ其都度所轄警察
署又ハ分署ヘ届出ヘシ
第十九條 第一條第十七條第十八條ノ摺取販賣人ニ
係ル願届等ニハ家場所在地町村長ノ奥印ヲ受クヘ
シ(廿二年縣令第五十九號
ヲ以テ本條中加除改正)
第二十條 此規則第一條第三條第五條第七條第八條
第九條第十二條第十三條第十四條第十七條第十八
條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス
(別紙)

願書式

牛(羊)乳摺取營業願

何郡何町村第何番字何

何郡何町村第何番屋敷

何地反別何程

持主 氏名

右ノ地所ニ於テ牛羊畜養乳汁摺取販賣仕度候間御檢
査ノ上御免許被成下度別紙位置並ニ構造ノ各圖面及

工事仕様書相添此段奉願候也
年號月日 右

願人氏 名印

何郡何町村第何番屋敷
地主 氏 名印

滋賀縣知事氏名殿

(二十二年縣令第五十九號)
以テ願書式申改正

○水雪製造貯藏並販賣規則

○甲第百八十二號 明治十四年十一月五日

明治十一年十二月本縣甲第七十六號布達製氷検査手續相廢シ水雪製造貯藏并販賣規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但本則第一條出願期限ノ儀ハ本年ニ限り十二月十日迄延期候事

(別冊)

水雪製造貯藏并ニ販賣規則

第一條 飲用ノ爲メ天然ノ凍氷ヲ製造セント欲スルモノハ毎年十月三十日限り人工ヲ以製造セント欲

スルモノハ隨時第一號書式ノ願書ニ製造場及近傍ノ概況ヲ配シタル圖面ヲ添ヘ該場所所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ尤モ製造場ノ外別ニ貯藏場ヲ設クル者ハ其旨願書ニ記載スヘシ但シ本文ノ地所官有地ナレハ別ニ地所拜借ヲ願出ヘク民有地ナレハ村總代若クハ地所持主等連署差支ナキ旨ヲ證シタル書面ヲ本文ノ願書ニ添ヘ差出スヘシ

第二條 前條願出ルルハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ検査シ不都合ナケレハ製造ヲ許可スヘシ

第三條 製造許可ノ後ト雖モ主務官吏臨時巡視シ若シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト認ムルルハ其製造ヲ差止メ又ハ現氷ヲ投棄セシムルコトアルヘシ

第四條 許可ノ上製造セシ凍氷ヲ發賣セント欲スルルルハ其期ニ至リ第二號書式ノ願書ヲ製造場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出シ更ニ氷質ノ検査ヲ受クヘシ但人工ヲ以製造スル者ハ最初一回本文ニ準シ検査ヲ受クルニ於テハ次回以後ハ其都度願出ル

ニ及ハスト雖モ時々主務官吏ヲ派出シテ試験ヲナスヘシ

第五條 前條氷質ノ検査ヲ願出ルルハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ或ハ現品ヲ持參セシメ試験ヲ遂ケ其質善良ニシテ無害ナル者ハ之ヲ飲料ニ供シ障害ナキ旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付スヘシ但試験ノ上品質不真ナルモノハ其旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付シ飲料ノ爲メニ發賣ヲ許サ、ルハ勿論時宜ニヨリ適應ノ場所ヘ投棄セシムルヲアルヘシ

第六條 天然ノ積雪又ハ他管ニ於テ製造シタル凍氷ヲ貯藏セント欲スル者ハ第一條ニ準シ初メニ貯藏場ノ検査ヲ受ケ尙發賣ノ期ニ至リ第四條ニ準シ更ニ品質ノ検査ヲ受ケヘシ但他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄廳所可ノ證ヲ差出スヘシ尤時宜ニ依リ貯藏ノ以前其品質ヲ検査スルヲアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪未タ發賣検査ヲ經サル以前醫師

ニ於テ患者ノ外用ニ供シ又ハ動植物貯藏ノ用ニ供スル等ノ目的ニテ賣渡シ又ハ授與スルトキハ其需用セル書面等ノ證トナルヘキモノヲ添ヘ貯藏場所ニ在リ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但氷雪融解スルカ又ハ事故アリテ發賣セサルモ其旨届出ヘシ

第八條 發賣検査ヲ經タル(他府縣ノ検査ヲ經タルモノノ亦タ同シ)氷雪ヲ卸小賣若クハ行商セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ試験成績告示書(他人ノ製造貯藏ニ係ルモノハ告示書ノ寫)ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出シ第四號雛形ノ營業鑑札ヲ申受ケ居商ハ店頭ニ揭示シ行商ハ之ヲ携帯スヘシ但甲者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣スル者更ニ乙者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣セントスルモ其都度試験成績告示書寫ヲ添ヘ郡役所ヘ届出ヘシ

第九條 前條許可ヲ得テ氷雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若クハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示スヘシ

第十條 既ニ許可ヲ得テ販賣スルモノト雖モ賣品中

ニ及ハスト雖モ時々主務官吏ヲ派出シテ試驗ヲナスヘシ

第五條 前條氷質ノ検査ヲ願出ルルハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ或ハ現品ヲ持參セシメ試驗ヲ遂ケ其質善良ニシテ無害ナル者ハ之ヲ飲料ニ供シ障害ナキ旨ヲ明記シタル試驗成績告示書ヲ下付スヘシ但試驗ノ上品質不真ナルモノハ其旨ヲ明記シタル試驗成績告示書ヲ下付シ飲料ノ爲メニ發賣ヲ許サハルハ勿論時宜ニヨリ適應ノ場所ヘ投棄セシムルコトアルヘシ

第六條 天然ノ積雪又ハ他管ニ於テ製造シタル凍水ヲ貯藏セント欲スル者ハ第一條ニ準シ初メニ貯藏場ノ検査ヲ受ケ尙發賣ノ期ニ至リ第四條ニ準シ更ニ品質ノ検査ヲ受クヘシ但他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄廳許可ノ證ヲ差出スヘシ尤時宜ニ依リ貯藏ノ以前其品質ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪未タ發賣検査ヲ經サル以前醫師

ニ於テ患者ノ外用ニ供シ又ハ動植物貯藏ノ用ニ供スル等ノ目的ニテ賣渡シ又ハ授與スルトキハ其需用セル書面等ノ證トナルヘキモノヲ添ヘ貯藏場所_{在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但氷雪融解スルカ又ハ事故アリテ發賣セサルモ其旨届出ヘシ}

第八條 發賣検査ヲ經タル_(他府縣ノ検査ヲ經タルモノ亦々同シ)氷雪ヲ卸小賣若クハ行商セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ試驗成績告示書_(他人ノ製造管轄ニ係ルモノハ告示書ノ寫)ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出シ第四號雛形ノ營業鑑札ヲ申受ケ居商ハ店頭ニ揭示シ行商ハ之ヲ携帶スヘシ但甲者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣スル者更ニ乙者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣セントスルハ其都度試驗成績告示書寫ヲ添ヘ郡役所ヘ届出ヘシ

第九條 前條許可ヲ得テ氷雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若クハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示スヘシ

第十條 既ニ許可ヲ得テ販賣スルモノト雖モ賣品中

有害品アルヲ發見スルハ直ニ其販賣ヲ差止メ
 又ハ主務官吏ヲ派出シ更ニ試驗ヲ遂ケ果シ有害品
 ナルハ第五條但書ニ準シ處分スヘシ
 第十一條 試驗成績告示書(發賣ヲ許可セ
ル者ニ限ル)及營業鑑札ハ製
 造若クハ貯藏セシ氷雪ヲ賣盡シ又ハ販賣ヲ止メタ
 ルトキハ速ニ返納スヘシ但本文告示書及鑑札ノ効
 力ハ下付シタル年ノ十二月卅一日限トス
 第十二條 營業鑑札ヲ貸借シ若クハ鑑札ヲ所持セス
 シテ氷雪ヲ飲料ノ爲メニ販賣スルヲ許サス
 第十三條 製造若クハ貯藏ノ節檢査ヲ受ケタル氷雪
 ト雖モ更ニ發賣檢査ヲ受ケサルモノハ飲料ノ爲メ
 ニ發賣スルヲ許サス
 第十四條 第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ刑
 法第四百廿六條ノ刑ニ處ス(廿年縣令第八十二
號ニテ改正)
 第壹號

凍水製造(凍水或ハ積雪貯藏)願(用紙半紙
ニテ二通)
 何郡何町(村)官(民)有地何山(谷)字何々ニ於テ凍水製造

(何府縣下何所ニ於テ何某製造ノ凍水或ハ天然ノ積雪貯
 藏)仕度候間御檢査被成下度依テ別紙略圖面并官地
 并借願書(地所關係人連署書面)相添此段奉願候也

年月日 住所族籍 名印
 滋賀縣令氏名殿
 前書ノ通相違無之ニ付與印仕候也

戶長(本人現住地ノ戶長) 名印
 戶長(製造場若クハ貯藏場所在ノ戶長) 名印
 衛生委員(全上) 氏 名印

第二號 凍水(積雪)發賣御檢査願(用紙半紙
ニテ二通)
 本年何月何日付ヲ以出願何月何日御許可相成何郡
 何町(村)何所ニ於テ製造貯藏ノ凍水(積雪)今般發賣
 仕度候間御檢査被成下度此段奉願候也

第三號 (署名與書式等第壹號式ニ準ス)

凍水(積雪)販賣營業鑑札下渡願ニテ紙
一凍水(積雪) 何程 用紙半紙

(十七年甲第四十二號布達ヲ以テ此
賣上ケ見積金何程ノ十字刪除)

產地何國何郡(區)何町(村)字何々

製造(貯藏)人住所族籍

氏 名

右卸(小賣)(行商)仕度候間營業鑑札御下渡被下度依
テ別紙品質試驗成績告示書相添此段奉願候也

年月日 住所族籍

本人 氏 名 印

(十七年甲第四十二號布達ヲ以テ
同業者住所族籍氏名ノ廢刪除)

滋賀縣何郡長氏名殿

前書ノ通相違無之ニ付與印仕候也

戶長

氏 名 印

第四條

營業鑑札雛形

衛生委員

氏

名 印

第何號

凍水(積雪)卸(小賣)(行商)營業

住所族籍 營業人 氏 名

木製
寸法

居商ハ

縱八寸
橫四寸

行商ハ

縱三寸五分
橫二寸

裏

年月日

滋賀縣
何郡役所

烙 印

○藥種商並製藥者取締細則

○縣令第十七號 明治廿三年二月二十四日

明治廿二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第四

十二條ニ據リ藥種商並製藥者取締細則左ノ通相定ム

藥種商並製藥者取締細則

百廿二

但明治十七年一月本縣甲第十一號布達同十八年三月三十二號布達同二十年五月本縣令第三百三十三號同廿一年十二月本縣令第七十二號ハ本年二月廿八日限リ廢止ス

藥種商並ニ製藥者取締細則

- 第一條 藥種商又ハ製藥者ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ其住所族籍氏名生年月日ヲ記入シタル書面ヲ以テ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 藥種商並製藥者免許鑑札ヲ毀失シ又ハ改氏名轉居代換等ノ節ハ其事由ヲ記シテ縣廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第三條 藥種商並製藥者廢業シタルトキハ十日以内死亡シタルトキハ一ヶ月以内他管ニ移轉セントスルトキハ移轉前免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
- 第四條 免許鑑札ハ賣買貸借スルコトヲ禁ス
- 第五條 藥種商並製藥者ハ左式ノ看板ヲ門戶又ハ店頭ニ掲クヘシ

口藥種商(製藥業)

滋賀縣何郡何村大字何幾番屋敷氏名

木材適宜
堅二尺五寸
横七寸

第六條 藥種商並製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置ヘシ

第七條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分チテ販賣セントスルトキハ每容器ニ藥品營業並藥品取扱規則第三十七條ニ依ルノ外尙自己ノ住所氏名ヲモ記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分ケスルヲ得ス
第八條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ藥品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第九條 藥種商並製藥者ニ於テ使用スル藥品容器封

絨用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト
 認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ
 第十條 本則第四條第五條第六條第七條第八條ニ違
 背シ又ハ第九條ノ命令ニ違ハサルモノハ貳拾錢以
 上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 附則

第十一條 本則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許
 證ヲ得タルモノト雖モ本則ニ依リ更ニ願出免許鑑
 札ヲ受クヘシ

第十二條 從來本縣ノ藥種商免許鑑札ヲ所持スルモ
 ノハ更ニ鑑札願受クルニ及ハス其儘營業スルコト
 ナ得

(參考)
 滋賀縣告示第二十六號 明治二十三年二月二十四日
 明治二十二年三月法律第十號藥品營業并藥品取扱規
 則第三十八條監視員巡視ノ際ハ左ノ雛形ノ證票ヲ携
 帶セム

紙製

曲尺壹寸二分

| | |
|--------------|------------------|
| 表 藥品監視員之證 | 滋 賀 縣 印 |
|--------------|------------------|

○藥局ヲ開設セスシテ藥品ノ販賣製造ノ
 業ヲ營マントスルモノ、届出方

○縣令第十八號 明治廿三年二月廿四日

藥劑師藥局ヲ開設セスシテ單ニ藥品ノ販賣製造等ノ
 業ヲ營マント欲スルトキハ其住所族籍氏名ヲ記入シ
 タル書面ニ免狀寫ヲ添ヘ縣廳ニ届出ツヘシ其住所ヲ
 變換シタルトキ及ヒ廢業シタルトキモ亦全シ
 但住所ノ變換及ヒ廢業ニ係ル届書ニハ免狀寫ヲ添
 フルニ及ハス

前項營業者ハ明治廿三年本縣令第十七號藥種商並製

藥者取締細則第五條第六條第七條但書ヲ第八條ヲ遵守
シ及ヒ第九條ノ命令ニ從フヘシ右ニ違背シタルモノ
ハ同細則第十條ヲ適用ス

○格魯兒酸加溜謨ヲ賣買授受セント
スルノ届出方

○縣令第三百三十六號 明治廿二年十一月八日
格魯兒酸加溜謨（エリトリン）鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里（カリ）ヲ賣買授
受スル者（醫師藥劑師藥種商製業者ヲ除ク）ハ豫メ其斥
量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主
ノ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時
其現品ヲ検査スルコトアルヘシ（二十三年縣令第十一號
ヲ以テ本項中改正）
前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ一圓
以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下
ノ拘留ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

格魯兒酸加溜謨 斤量
右ハ（醫業）（工職用等何々）必要ニ付前書ノ斤量

書式(用紙半紙) (郵紙)

(賣買) (授與) 致度御認可被下度候也

本籍何府市町何郡市何區番地族籍
現住所何府市町何郡市何區番地
(買主) (受主) 氏 年 名
何府市町何郡市番地族籍
(賣主) (授主) 氏 年 名
警察署長宛
年月日

○產婆營業規則

○甲第三十三號 明治十八年三月三日
產婆營業規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事
但開業試驗實施ノ期日ハ追テ可相達ニ付夫マテハ
從前ノ手續ニ據リ可願出尤モ志願ノ者ハ右期日內
ト雖モ本則第一條ニ據リ願出ル時ハ試驗ヲ遂ケ免
狀ヲ交付スヘシ

(別冊)

産婆營業規則

- 第一條 産婆ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ下ニ示ス書式ノ願書並ニ免許産婆ノ助手トナリ平産十人以上難産二人以上ヲ取扱ヒタル履歴書ニ教師ノ証書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出試験ヲ請フヘシ
- 第二條 當廳ニ於テハ左ノ試験ヲ遂ケ内務省ヘ具申シ合格ノ者ハ同省ノ免狀ヲ付與スヘシ
- 第一 試験科目
 - 婦人生殖器ノ構造及生理概要
 - 妊娠ノ徵候監別及攝生法
 - 順産ノ處置及不順産ノ處置
 - 産前後ノ注意及生兒ノ取扱法
- 第二 試験問題ハ一科二題トシ答記時間ハ一題二時間ヲ超ルヲ許サス但筆記ヲ罷クセサル者ハ口答セシメ傍ニ於テ筆記セシムヘシ
- 第三 受験人ハ書籍ヲ携帯シテ試験場ニ入ルヲ許ス

サス且一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ他席ニ出ルヲ許サス

- 第三條 從來開業ノ者ニテ當縣産婆免許鑑札ヲ有スル者ハ試験ヲ要セス當分營業スルヲ許ス但從來開業ノ者ト雖モ本免狀ヲ得ント欲スルモノハ第一條ノ手續ニ據リ願出ヘシ
- 第四條 産婦及生兒ニ對シ針灸ハ勿論藥劑ヲ與ヘ若クハ藥方ヲ指示スヘカラス
- 第五條 難産ノ場合ニ於テハ醫師ノ差圖ヲ受クルコト非レハ安リコト下スヘカラス但時機切迫醫ヲ請フノ暇ナキ場合ハ格別ナリトス
- 第六條 産婆ハ如何ナル難産ノ場合ト雖モ一切器機ヲ使用スルヲ許サス
- 第七條 他管ニ於テ内務省ノ免狀ヲ受ケタル者當縣下ニ轉籍若クハ寄留シテ開業セント欲スルハ免狀寫ニ履歴書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ

但轉籍ニ係ル者ハ免狀書換ヲモ請願スヘシ

第八條 內務省ノ免狀ヲ有スル者他(管内外ヲ問ハス)轉籍若クハ寄留スルルハ其旨所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ

但他管ヘ轉籍ノ者ニ係ル免狀書換ハ入籍地ノ管廳ヘ請願スヘシ

第九條 免許鑑札ヲ有スル者他ヘ轉籍若クハ寄留スルルハ其管外ニ係ル者ハ鑑札ヲ返納シ管内ニ係ル者ハ移住地ノ郡役所ヲ經テ書換ヲ請願スヘシ

第十條 免狀免許鑑札ハ本人廢業若クハ死亡シタルルハ之ヲ返納シ改氏名其他身上ニ異動ヲ生シ又ハ水火盜難過誤等ニテ毀失シタルルハ其事由ヲ具シ書換ヲ請願スヘシ

第十一條 免許ヲ得スシテ產婆ノ業ヲ營ミ又ハ此規則第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本縣ノ免許鑑札ヲ有スル產婆ニテ此規則ニ違背シ又ハ總テ產婆ノ業務ニ關シ處刑ヲ受ケタル者ハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

(書式)

產婆開業願 用紙美濃紙ニテ三通

私儀產婆開業仕度候間御成規ノ通御試驗ノ上御許可被成下度依テ別紙履歷書並師家證書相添此段奉願候也

住所族籍 氏 名印

年月日 氏 名印

滋賀縣令氏名殿

前書之通相違無之候ニ付與印仕候也

戸長 氏 名印

衛生委員 氏 名印

履歷明細書 用紙美濃紙ニテ三通

鍼灸術並按摩營業取締規則

住所族籍

氏名

年號何年何月生

一年號何年何月ヨリ何府何所何某ニ從ヒ何年何月迄何學修業

一年號何年何月ヨリ何府縣何所產婆何某ノ助手トナリ何年何月迄平産何人難産何人ヲ取扱フ
右之通相違無之候也

年月日

右

氏名印

右掲記外ノ願届書ハ適宜ニ認ムヘシト雖モ必ス衛生委員ノ與書調印ヲ要スルモノトス

○鍼灸術並按摩營業取締規則

○甲第百八十號 明治十八年十二月廿一日

鍼灸術並按摩營業取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

鍼灸術並按摩營業取締規則

第一條

鍼治(毫鍼ヲ云フ)又ハ灸治墨灸藥灸水灸漆灸ト稱スル類ノモノ包含スノ業ヲ營マント欲スルモノハ第一號書式ニ據リ修業履歷書及ヒ師家ノ證書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ但墨灸藥灸水灸漆灸ノ類ハ別ニ其方劑書ヲ付スヘシ

第二條

前條營業者ハ滿二十年以上ノモノニ非レハ許可セサルモノトス

第三條

按摩(按腹又ハ乳揉ト稱スル類ノモノモ含有ス)ノ業ヲ營マント欲スルモノハ第二號書式ニ據リ所管郡役所ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第四條

免許鑑札ヲ毀失シ若クハ改氏名轉居等ノ節ハ再渡又ハ替換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管ヘ轉籍寄留スルキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第五條

各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板ヲ表出シ且ツ他出シテ營業スルキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ

第六條

鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルコトヲ許サス

第七條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其醫師ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鍼灸治療等ノ術ヲ施スコトヲ許サス

第八條 人ニ藥劑ヲ與フルハ勿論藥方治療法等ヲ指シ又ハ醫師ノ差圖ニ非スニテ蟻鍼吸角其他放血ノ術ヲ施スコトヲ禁ス

第九條 各營業者ハ一郡若クハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設クルコトヲ得但組合規約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

第十條 無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ(二十年縣令第八十號ニテ改正)

第壹號書式 (用紙半紙)
鍼灸(術)營業願

私儀今般鍼灸(術)營業仕度候間免許鑑札御下附被

成下度別紙修業履歷書並ニ師家ノ証書(方劑書)相添此段奉願候也

年號月日 住所族籍 氏 名印
滋賀縣令氏名殿 前書之通ニ付與印仕候也 戶長 氏 名印

履歷書 (用紙半紙) 住所族籍
(寄留人ナレハ原籍府縣國郡區町村番地ヲ列記スヘシ)
戶主又ハ何誰幾男女 氏 名

一何年號月日ヨリ何府縣何ノ誰ニ從ヒ何年何月間何學(術)修業
一何年號何月何府縣ノ免許鑑札ヲ得何年何月間鍼

(灸)術營業

一何年號何月何國何郡何町(村)何番地へ轉住

一何々

一刑罰ノ有無

右之通相違無之候也

年號月日

右氏 名印

第二號書式(用紙半紙)

按摩營業願

私儀今般按摩營業仕度候間免許鑑札御下附被成下
度此段奉願候也

年號月日

住所族籍

氏 名印

何郡長氏名殿

(與書式第一號ニ全シ)

(參考)

○甲第七十九號 明治十八年十二月廿一日

明治十五年ニ本縣甲第三拾壹號布達按摩針灸等營業

規則相廢候條此旨布達候事

○灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方
劑使用禁止

○縣令甲第九號 明治十九年八月七日

灸治營業者ニ於テ墨灸藥灸水灸漆灸ト類スル類ニ要
スル方劑中明治十三年太政官第一號布告藥品取扱規
則第二類第三類ニ掲ケタル毒藥劇藥ヲ配伍スルモノ
ハ之ヲ使用スルコトヲ禁ス違フ者ハ違警罪ノ處分ニ
付セラルヘシ

○入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則

○甲第八十一號 明治十八年十二月二十一日

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則左ノ通相定候條
此旨布達候事

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒齒抜口中療治接骨營業ハ從來免許
ヲ受ケ鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

第二條 免許鑑札ヲ毀失シ若シハ改氏名轉居等ノ節

灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方劑使用禁止

ハ再渡又ハ書換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管へ轉籍寄留スルルハ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 他管ニ於テ從來開業ノ免許ヲ受ケタルモノ本縣管内へ轉籍寄留又ハ出張所ヲ設ケ開業セント欲スルルハ前管廳ノ免許証寫ヲ添へ縣廳へ願出ツヘシ

第四條 各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板ヲ表出スヘシ且ツ他出シテ營業スルルハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ

第五條 鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルルヲ許サス

第六條 局部外ノ施術及ヒ内服藥ヲ與へ又ハ其方劑ヲ指示スルルヲ禁ス

第七條 明治十三年第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ掲クル毒劇藥ハ施術上如何ナル場合ト雖モ之ヲ使用スルルヲ許サス

第八條 各營業者ハ一郡若クハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設クルルヲ得但組合規約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

第九條 無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第四條第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルルアルヘシ(二十年縣令第八十號ニテ改正)

○縣令甲第三十九號 明治十九年十一月十一日
入齒若クハ齒拔營業鑑札ヲ所持スルモノハ互ニ其業ヲ兼ルルヲ得

○賣藥部外藥劑調製並販賣規則
○甲第三十六號 明治十五年二月廿三日
賣藥部外藥劑調製並販賣規則別冊ノ通相定來ルル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前當廳ノ許可ヲ得タル調劑者ハ更ニ願出ルニ及ハス候事

(別冊)
賣藥部外藥劑調製並販賣規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥部外藥劑トハ鼠取

第十條 請賣者賣子等前條ノ通知ヲ受ケタル時ハ速ニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條 諸鑑札ハ本人廢業若クハ死亡スル時ハ之ヲ返納シ改氏名代替リ其他身上ニ異動ヲ生シタル時ハ書換ヲ請フヘシ但廢業其他ノ事故ニ依リ鑑札ヲ返納スル時ハ其屆書ニ請賣者若クハ賣子ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十二條 水火盜難過誤等ニテ諸鑑札ヲ毀失シタル時ハ其事由ヲ詳具シ再渡ヲ請フヘシ

第十三條 免許ヲ得スシテ藥劑ヲ調製藥賣シ又ハ請賣行商シ又ハ此規則第五條第八條第九條第十條ニ違反シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外其藥劑ハ行政ノ處分ヲ以テ廢棄セシムルヲアルヘシ(十七年甲第十號布達ヲ以テ改正セラレ又廿年縣令第八十一號ニテ改正ニナル)

第一號 賣藥部外藥劑檢査願 用紙半紙ニテ二通

一方名

藥品 分量

製法

用法

功能

右藥劑調製發賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

住所族籍 氏 名印

年號月日 氏 名印

滋賀縣令氏名殿 戶長 氏 名印

前書相違無之ニ付與書仕候也

衛生委員 氏 名印

第二號 賣藥部外藥劑讓渡願 用紙半紙ニテ二通

一方名

藥品 分量

製法

用法

功能

右、何年何月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般
何某へ讓渡申候依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書換
被下度此段奉願候也

年號月日

住所族籍

讓渡人 氏

名印

住所族籍

讓受人 氏

名印

滋賀縣令氏名殿

(與書式前同但讓渡人讓受人双方
ノ月長衛生委員與書調印スヘシ)

第三號

一方名

一方名

用紙半紙
ニテ一通

住所族籍

住所族籍

右調劑者

氏 名

(調劑者異ナレハ假令一方タリトモ必調劑者ノ

住所族籍氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ)

右ノ藥劑何方請賣仕度依テ別紙調劑者所持ノ免許

鑑札寫相添此段奉願候也

住所族籍

年號月日

請賣願人 氏

名印

滋賀縣何郡長氏名殿

(與書式第一號ニ同シ)

第四號

賣藥部外藥劑行商願

用紙半紙
ニテ一通

一方名

一方名

住所族籍

住所族籍

右調劑者

氏

名

住所族籍

賣子

氏

名

(願人請賣者ナレハ左ノ通り認ムヘシ)

| | |
|------------------------------------|--|
| 右調劑者 | 住所族籍 氏名 |
| 右請賣者 | 住所族籍 氏名 |
| (賣子ノ住所族籍氏名ハ前ニ同シ) | |
| 右ノ藥劑自分(賣子派出)行商仕度候間行商鑑札御下渡被下度此段奉願候也 | |
| 年號月日 | 右調劑者(請賣者) 氏名印 |
| 滋賀縣何郡長氏名殿 | |
| (與書式第一號ニ同シ) | |
| 第五號 | |
| 諸鑑札雛形 | |
| 調劑 免許 鑑札 | 番號 賣藥部外藥劑許可之證 住所 氏名 右免許候事 年月日 滋賀縣印 |
| | 寸法 縱五寸五分 橫四寸 但紙製 |

| | | |
|---|------------------------------------|--|
| 請賣 鑑札 表面 | 全上 裏面 | 行商 鑑札 表面 |
| 番號 賣藥部外藥劑請賣許可之證 一方名 一方名 一方名 右請賣免許候事 年月日 滋賀縣 何郡役所印 | 調劑者 住所 氏名 請賣者 住所 氏名 | 賣藥部外藥劑行商許可之證 一方名 一方名 一方名 右行商免許候事 |
| | | 寸法 縱三寸五分 橫二寸五分 但木製 |

傳染病豫防細則

全上
裏面

年月日
番號

滋賀縣
何郡役所

烙印

○傳染病豫防細則

○甲第八十七號 明治十六年七月三十日

傳染病豫防細則別冊ノ通相定メ來九月一日ヨリ施行
候條此旨布達候事

但從前當廳ノ布達々指令等ニシテ本則ニ抵觸ノ廉
ハ總テ消滅候儀ト可相心得事
(別冊)

傳染病豫防細則

第一章 總則

第一條 傳染病

虎列拉、腸室疾、赤痢、實布、的利亞、
發疹室疾、痘疹、六病ヲ云フ 豫防ノ方法ハ
明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則ノ外

尙ホ本則ヲ施行スルモノトス但腸室扶私、赤痢、實布
的利亞ノ三病ハ其流行ノ兆アル旨告示シタル場合
ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 傳染病消毒ノ方法ハ明治十六年七月本縣告第
七十二號告示ニ依ルヘシ

第三條 自宅療養ヲ爲スルハ其病室ヲ異ニシ看護人
ヲ定ムヘシ但病室ヲ異ニスルヲ得サル場合ニ於テ

ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 自宅療養ヲ爲スルハ止テ得サル要用アル者
ヲ除クノ外他人ノ出入ヲ謝絶スヘシ

第五條 患者治癒死亡シ又ハ避病院へ送致シタル後
其衣服、臥具、器具、及病室等ハ掛官吏若クハ衛生委員

ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行シ其久シク患者或ハ死
体ニ直接シ又ハ甚シク汚穢シタルモノハ燒却又ハ

埋却スヘシ

第六條 患者治癒シタル後又ハ看護人其他患者或ハ
死体ニ親接シタル者ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮

ヲ受ケ消毒法ヲ行フニ非サレハ他人ト交通スヘカラス
第七條 病毒ニ汚染シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ洗滌
シタル汚水ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指定シタル
場所外ニ投棄スヘカラス
第八條 患者若クハ死体ニ觸接シ又ハ排泄物ニ汚染
シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ湖川溝渠等ニ於テ洗滌
スヘカラス
第九條 患者死亡セシキハ直ニ療治醫及衛生委員ニ
通報スヘシ
第十條 死体ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ
消毒法ヲ施行シ速ニ棺内ニ歛ムヘシ
第十一條 掛官吏ノ許可ヲ得ズシテ患者及ヒ死体ヲ
他ニ移轉スヘカラス(十九年甲第五十五號
布達ヲ以テ改正)
但傳染病豫防規則第十四條第二項ヲ施行スル場
合ニ於テハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病者死者モ亦
本條ニ準ス
第十二條 航湖中船舶内ニ於テ傳染病若クハ該病ノ

疑アレ症ニ罹ル者又ハ其死者アルキハ施行シ得ヘ
キ豫防及消毒ノ方法ヲ行ヒ置キ着港ノ上直ニ其地
掛官吏若クハ衛生委員ヘ届出指揮ヲ受クヘシ
第二章 虎列刺病
第十三條 排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有
蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ
第十四條 掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得ズシテ
患者ノ入りタル厠園ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞
尿ヲ汲取ルヘカラス
第十五條 患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺
等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒
法ヲ施行スヘシ
第十六條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏
若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ
第十七條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避
病院ヘ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以
前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内

ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス
第十八條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指
定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ
乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚地又ハ他船ト
ノ交通並ニ他港ヘ進航スルヲ許サス

第三章 腸室扶私病
赤痢病

第十九條 排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有
蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第二十條 掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得ヌシテ
患者ノ入りタル厠圍ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞
尿ヲ汲取ルヘカラス

第二十一條 患者若クハ死体ヲ載セタル船車駕籠釣臺
等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒
法ヲ施行スヘシ

第四章 實布埤利亞病

第二十二條 患者ノ痰唾涙汁及之ニ汚穢スル綿布、紙屑
ノ類ハ其都度消毒法ヲ行ヒ有蓋ノ器物ニ入レ密閉

シ置クヘシ

第二十三條 患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺
等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒
法ヲ施行スヘシ

第五章 發疹室扶私病

第二十四條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏
若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十五條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避
病院ヘ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以
前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ其家内ニ
在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第二十六條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指
定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ
乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ他船
トノ交通並ニ他港ヘ進航スルヲ許サス

第六章 痘瘡病

第二十七條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏

若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ
第廿八條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避
病院へ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以
前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内
ニ在ル物品ヲ賣買授受スヘカラス
第廿九條 落痂及病室ノ塵埃及患者觸レタル綿布
紙屑ノ類ハ斷片ニ至ル迄時々收拾シ之ヲ焼却スヘ
シ
第三十條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指
定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ
乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ他船
トノ交通並ニ他港へ進航スルヲ許サス
第七章 罰則
第三十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ處分
ニ付スヘシ

(参考)

○告第七十二號 明治十六年七月三十日
傳染病消毒法別冊ノ通可相心得此旨告示候事
(別冊)

傳染病消毒法

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ微小ニシテ見ルヘカ
スト雖モ傳送物中ニ混入シテ人体ニ達シ其病症ヲ發
現スルモノトス此傳送物ヲ滅スルモ即チ病毒モ亦
消盡ス故ニ烈火ヲ用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良ト
ス然レモ其燒棄ニ付シ難モノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ蒸
蒸若クハ灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力
ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラサレハ其病毒散蔓シテ終ニ
消滅スルコトナカラン故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消
毒ヲ以テ豫防法中ノ最モ緊要ナルモノトス
消毒法ヲ施スニ當テ其病性ト其施スヘキ物トニヨリ
其科ヲ同クセス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等
消毒法第二死体及ヒ排泄物等消毒法第三衣服、臥具等
消毒法、第四家屋、船舶等消毒法、第五什具、運搬器等消毒

法、第六圃圖、溝渠等消毒法トス但實布埤利亞、發疹室扶私、痘瘡ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス消毒藥劑ハ其品類頗ル多ク且其性質功能モ亦同一ナラス故ニ其功能ヲ類別シテ第一號ヨリ第九號ニ至ルヲ以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス

消毒藥

(第一) 濃厚石炭酸水

結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但石炭酸一分ニ虞利斯林又ハ亞爾箇兒二分ヲ和

シテ能ク溶解シ後本量ノ水ヲ加フヘシ

(第二) 稀薄石炭酸水

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但溶解法前ニ同シ

(第三) 石炭酸蒸氣

結晶石炭酸(或ハ之ニ二培ノ亞的兒ヲ加ヘタルモノ)ヲ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシメ或ハ石炭酸一分ニ溜水二十分ヲ和シ布片ニ燕シ室內ニ懸ケ置キ蒸

發セシムヘシ

(第四) 石炭酸末

粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ瀾漚セシメタルモノ

但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノ「フェニール酸」即チ結晶石炭酸ヲ含ミ稍々色ヲ帯ヒタル流動石炭酸ナリ

以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸 三百倍ノ水ニ溶解ス

テール油

石炭酸石灰 石灰百分石炭酸三分

(第五) 流酸鐵合劑

綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加ヘタルモノ

但此合劑ハ久ク貯フヘカラス用ニ臨ミテ調製スヘシ

(第六) 硫酸硫酸鐵合劑

硫酸五分 硫酸鐵六分水八十九分ヲ和シタルモノ
以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品

鹽化亞鉛八倍ノ水ニ溶解セルモノ
明礬粗製明礬ノ過量ヲ水中ニ投シ
能ク攪拌シテ後其上清ヲ取ル

ヨロイル明礬 四倍ノ水ニ溶解ス

皓礬 百二十倍ノ水ニ溶解ス

(第七) 木炭 木炭二分生石灰二十分

(第八) 石灰

其他木灰、鋸屑、土等ハ又多少收結ノ功アルモノトス

(第九) 亞硫酸瓦斯

硫黃ヲ燒テ瓦斯ヲ發生セシム其法ハ疊敷ノ室ニ硫
黃大約三百匁(木炭末大約十匁ヲ加フルモハ更ニ宜
シ)ヲ要ス但一時ニ火點ノ昇騰スル恐アルヲ以テ二
三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々ニ焚燒セ
シムヘシ
但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室(土蔵
ノ類)ニ繩ヲ張り消毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ域ハ竹

架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫黃ヲ蒸スヘシ又
人々各自ノ衣服ヲ消毒スルニハ一握ノ粗製硫黃
ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服
ヲ被ラセ蒸蒸スヘシ

○虎列刺

凡ソ虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ舍ルモノトス故ニ吐
瀉物及ヒ之ニ汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ
就中ノ汚染スルヲ以テ最良法トス患者及ヒ其死体
ハ直ニ病毒ヲ傳フル者ニ非スト雖モ吐瀉物ニ汚染ス
ルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ
從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院
ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用ヒテ全身ヲ
洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着ス
ヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死体取
扱人等ノ他人ニ接スルモ亦此法ニ從フヘシ

第二條 自宅療養ノ看護人及^{死者}運搬人又ハ船中ニ
テ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルトキハ必
ス沐浴更衣スヘシ

第三條 病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人
其他患者ニ親接セル者ノ他出スルキハ必ス其身体
ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニ
シテ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル
者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレモ其家ヲ出ルニ臨
テ盥嗽スルヲ良トス但誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服
等ヲ汚シタルキハ第十二條ニ據リ消毒法ヲ行フヘシ

第二 死体及排泄物等消毒法

第五條 死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル
單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミナルヘク速ニ棺
内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ灌腸シ
然ル後綿ヲ以テ虹門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第六條 死体ハ醫師確認ノ後ハ成ルヘク速ニ火葬ス

ヘシ若シ止ヲ得ス埋葬スルキハ擴穴ノ深サハ各地
ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タル
ヘシ

第七條 船舶航行中死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水
(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假
ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計
ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

第八條 吐瀉物及之ニ汚染セル紙屑、布片等ハ之ヲ金
屬又ハ陶製ノ便器、嗽盤等ニ承ケ之ト同量ノ濃厚石
炭酸水(第一)<sup>石炭酸若シ缺乏ノ時ニ際シテハ硫酸鐵合劑、
硫酸硫酸鐵合劑、生石灰等ヲ兼用スヘシ</sup>ヲ灌キ壺或
ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付
スヘシ

第九條 避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚
穢物ヲ燒却スルニハ豫テ定メ置キタル場所ニ適宜
ノ穴ヲ掘リ厚ク灰或ハ石灰ヲ其底ニ敷キ乾キタル
藁、鉋屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ注キテ其上ニ置キ
之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點

スヘシ火勢滅スルハ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ
全ク燒盡スルヲ期スヘシ但其汚汁ノ地中ニ滲透セ
サル様注意スルヲ要ス

第十條 吐瀉物ハ前條ノ如ク燒却スルヲ法トスレモ
若シ水分多クシテ燒却シ得サル場合ニ於テ之ヲ埋
却スルニハ多量ノ濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌キ其埋穴
ノ深サハ第六條ニ準スヘシ

第十一條 患者ノ入りタル厠圍ノ糞汁ハ法ノ如ク燒
却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ石炭
酸末(第四)糞汁ノ若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰(糞汁ノ
投シテ汲取リ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十二條 甚シク吐瀉物ニ汚染シ又ハ久シク患者若
クハ死体ニ直接シタル衣服、臥具、蚊帳、疊、蓆等ハ之ヲ
燒却スヘシト雖モ其汚染スルコト甚シカラズ患者若
クハ死体ニ接スルコト久シカラスシテ洗濯ニ堪フヘ
キモノハ之ヲ桶ニ入レ稀簿石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸

シ置クコト廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時
ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸
等ノ缺乏ニ際シテハ熱湯中ニ入レ一時間以上之ヲ
煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリ
テ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸
スヘシ

第十三條 吐瀉物運搬人及避病院ノ醫師看護人死体

取扱人等ハ患者及汚穢物ニ親接スルコト久シク若ク
ハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スコト前條
ニ同シ但本文ニ掲クル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ
沸湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第十四條 自宅療養ノ看護人及死体運搬人又ハ船中

等ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具等ハ直ニ
病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭
酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ蒸蒸シ日光
及大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十五條 患者及死体ヲ置キタル室ノ疊、庭類ハ之ヲ柱若クハ塗ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニ在リシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及臨時避病院ニ假用セシ家屋モ亦之ニ倣フヘシ但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第十六條 患者アリタル西洋形船舶ノ消毒法ハ前條ヲ適用シ患者ト船室ヲ同クシタル乗客及其手荷物ニハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ其室内ニ若シ積荷アレハ其儘六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ但日本形小船ハ適宜本條ヲ斟酌シテ施行スヘシ

第十七條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘク是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第十八條 臨時假設ノ避病院ニシテ流行終ル後之ヲ取毀ツニハ其前テ汚穢シタル板敷、板壁及柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 仕具、運搬器等消毒法

第十九條 吐瀉物ヲ承ケタル漱盤、便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨スヘシ但木製ノ便器等ハ其用ヲ終ルノ後燒却スヘシ

第二十條 患者及死体若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ヒタル舟、車、駕籠、其他運搬器等ハ稀薄石炭酸水(第三)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ但駕籠ハ若シ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルモハ之ヲ燒却スヘシ

第二十一條 患者ニ用ヒタル仕具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カ

スヘシ其洗フヘカヲサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行
フノ際其内ニ排列シ（福潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ湯スナ良トス）亞硫酸瓦斯（第九）
或ハ石炭酸蒸氣（第三）ヲ以テ一時間蒸蒸スヘシ
第廿二條 病室ニ在リタル書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ展
シ石炭酸蒸氣（第三）若クハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ以テ蒸
蒸スヘシ

第廿三條 醫術器械及木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器
ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水（第
二）ヲ以テ洗フヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第廿四條 患者ノ入りタル廁圍及嘔吐シタル地ニハ
充分硫酸鐵合劑（第五）ヲ注キ其廁圍ノ糞汁ハ速ニ之
ヲ汲取リ第九條第十一條ニ據リ處分シ其跡ヘ復硫
酸鐵合劑（第五）ヲ注入シ其嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ
掃除シ穢土ハ第九條ニ準シ處分スヘシ
第廿五條 廁圍ノ糞壺又ハ桶ノ破壊シテ病毒滲漏ノ
疑アルモノハ速ニ之ヲ掘除ケ其周圍並ニ底面ノ土

モ亦深ク掘取リ濃厚石炭酸水（第一）ヲ充分ニ灌注シ豫
定ノ場所ニ埋却シ其跡ニモ同様ノ消毒藥ヲ注キ更
ニ新土ヲ填ムヘシ

第廿六條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ混入シタ
ルトアルハ硫酸硫酸鐵合劑（第六）ヲ注キ其淤泥ヲ
撈ヘ豫定ノ場所ニ埋却シ後多量ノ水ヲ灌キテ疏通
セシムヘシ

○ 腸室扶私

凡ソ腸室扶私患者ノ瀉下物及之ニ汚染シタル衣服器
具等並ニ其病室、廁圍便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アル
モノトス故ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒法ヲ行フヘシ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク患
者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルハ沐浴換
衣スヘシ

第二 死体及排泄物等消毒法

第二條 死体ハ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸

水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第三條 瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第一)ヲ灌キ盡或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條 避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物ハ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三 衣服、臥具等消毒法

第五條 衣服、臥具ノ瀉下物ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨シ或ハ之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四 家屋、船舶等消毒法

第六條 患者及死体ヲ置キタル家屋船舶及避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ或ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨スヘシ但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第七條 病室ニ用ヒタル什具ハ直ニ瀉下物ニ汚穢スルニ非レハ消毒ヲ要セザレド其汚穢セルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗滌シ又ハ品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹼水ヲ以テ洗フヘシ但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ燒却スヘシ

第八條 患者若シハ死体ヲ運ヒタル器具ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第二十條ヲ適用スヘシ

第六 廁圍、溝渠等消毒法

第九條 患者ノ入リタル廁圍ノ糞汁ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キテ之ヲ汲取リ豫定ノ場所ニ搬送シテ埋却スヘシ

第十條 若シ誤テ瀉下物ヲ溝渠、下水等ニ混入シタルヲアルトハコロイル石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

○赤痢

凡ソ赤痢患者ノ瀉下物及之ニ汚染セル衣服、臥具等並ニ病室、廁圍便器等ハ皆病毒傳播ノ恐アルモノトス故

ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一條 患者及看護人等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第一

條第二條ヲ適用スヘシ

第二條 死体及排泄物等ノ消毒法

ハシ但此患者ノ死体ハ最腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ歛メ且成ルヘク速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬スヘシ

第三條

瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ濃厚石炭酸水(第一)或ハ硫酸鐵合劑(第五)或ハ硫酸硫合劑(第六)ヲ注キ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條

避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第九條第十條ヲ適用スヘシ

第三

第五條 衣服、臥具等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十二條

第十三條第十四條ヲ適用スヘシ

第四

第六條 家屋、船舶等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十五條第十六條ヲ適用スヘシ

第五

第七條 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十九條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

第六

第八條 患者ノ入りタル厠圍ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其糞汁ハ速ニ汲取リ豫定ノ場所ニ搬送シテ之ヲ埋却シ其糞壺ニハ同様ノ消毒法ヲ注入スヘシ

第九條 糞壺又ハ桶ノ破壊ニ依リ病毒滲漏ノ疑アルモノ及誤テ瀉下物ヲ溝渠下水等ニ混入シタル時ノ處置方法ハ虎列刺ノ部第廿五條第廿六條ヲ適用スヘシ

○實布埤利亞

凡ソ實布埤利亞ノ病毒ハ患者ノ痰唾及呼氣或ハ涕汁

等皆之カ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必消毒法ヲ行フヘキモノトス其區別左ノ如シ

第一 患者及看護人消毒法

第一條 患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及死患者體運搬人並ニ避病院ノ醫師看護人、死患者體取扱人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セル醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルルハ必ス盥漱スヘシ

第二 死體及排泄物等消毒法

第三條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルヲ得ハ最良トス但成ヘク火葬スヘシ

第四條 痰唾涕汁及此等ノ排泄物ニ汚穢セル綿布紙

屑ノ類ハ稀薄石炭酸水ヲ濯キ壺或ハ桶ニ入レ戶外

ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第五條 前條排泄物ハ豫定ノ場所ニ搬送シ燒却スヘシ若シ水分剩多ニシテ燒盡シ難シキハ深ク埋却スヘシ

第三 衣服、臥具等消毒法

第六條 衣服、臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ燒却スヘシト雖モ其汚穢スルト甚シカラサルモノハ稀薄

石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置クヲ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ蒸蒸セシ後日光及大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋、船舶等消毒法

第七條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗糙ナル物ニ附着スルカ故ニ最注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第八條 患者及死體ヲ置キタル病室ノ疊席類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時

乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戶ヲ開キ疊蓆壁障子等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室屍室又ハ臨時避病院ニ假用セシ家屋又ハ船室等モ之ニ倣フヘシ但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第九條 病室ニ用ヒタル什具、飲食器及玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澁キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ温調ニ堪フヘキモノハ之ニ間薰蒸スヘシ

第十條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ

石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第十一條 患者及死骸ヲ運搬セシ器具及醫術器械等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第二十條第廿三條ヲ適用スヘシ

○發疹室扶私

凡ソ發疹室扶私ノ毒病ハ患者及死者ノ身軀ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊蓆屏障等ニ至ルマテ盡ク附着ノ其病毒久シク潛匿スルモノナレハ病軀及死骸ニ近接セルモノハ總テ病毒ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者及看護人等ノ消毒法ハ實布埤利亞ノ部第一條ヲ適用スヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者

等ハ成ヘク石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及手ヲ洗拭ス

第二 死躰及排泄物等消毒法

第三條 死躰ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成ヘク速ニ棺内ニ斂メ火葬スヘシ若シ止テ得ス埋葬スルハ擴穴ノ深サハ各地ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タルヘシ

第四條 船舶航行中死者アリタル時ノ處置方法ハ虎刑刺ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第五條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成ヘク速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置スヘカラス

第三 衣服、臥具等消毒法

第六條 患者ノ久シク着シタル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死體ニ直接シタル臥具避病院ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成ヘク燒却スルヲ良トス其燒却ヲ彈ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入

レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澁キ浸シ置ク一廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時間以上ニ煮沸スヘシ其洗濯スヘカヲサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸スヘシ

第四 家屋、船舶等消毒法

第七條 家屋ノ消毒法ハ實布埤利亞ノ部第八條ヲ適用スヘシ但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ亦多少消毒ノ効アルモノトス

第八條 船舶ノ消毒法ハ虎刑刺ノ部第十六條ヲ適用スヘシ

第九條 臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方法ハ虎刑刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第十條 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎刑刺ノ部第二十条ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

○痘瘡

凡ソ痘瘡ノ病毒ハ膿漿、痘痂、呼氣、津唾及死体ヨリ傳染
シ又患者ノ衣服、臥具其他患者ニ接觸セシ器具及居室
等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成
ク燒却スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト
交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹼水
ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタ
ル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及死体運搬人
並ニ避病院ノ醫師死体取扱人又ハ船中等ニテ患者
ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從
フヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セル醫師及患者ノ家人ニシ
テ患者ニ直接セサル者、親戚朋友ノ一時見舞タル者
等ハ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及手ヲ洗フヘシ

第二 死體消毒法

第三條 死體ノ消毒法ハ發疹室扶私ノ部第三條ヲ適
用スヘシ

第四條 船舶航行中死者アリタルトキノ處置方法ハ
虎列刺ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第三 衣服、臥具等消毒法

第五條 患者ニ係ル衣服、臥具等ノ消毒法ハ發疹室扶
私ノ部第六條ヲ適用スヘシ

第六條 避病院ノ醫師、看護人及死體運搬人等ノ衣服
ニ施スヘキ消毒法モ亦前條ニ同シ

第四 家屋、船舶等消毒法

第七條 家屋等ノ消毒法ハ實布埜利亞ノ部第八條ヲ
適用スヘシ

但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ又多少消毒ノ
効アルモノトス

第八條 船舶ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十六條ヲ適用
スヘシ

第九條 臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方

法ハ虎列刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第廿條

ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

(參考)

傳染病豫防規則

○第三十四號布告 明治十三年七月九日

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ
傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸室扶私
赤痢、實布徑利亞、發疹室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ

ハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ
第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遅クモ二十
四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要

ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ
郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳、東京府下ハ府廳及ヒ警視
本署ニ届出ヘシ十八年第二號布告ヲ以テ(衛生委
員)ヲ(戸長)ト改ム以下皆全シ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出
警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ内
務省ニ申報スヘシ十三、五、十四號布告
ヲ以テ本項ヲ增加ス

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認
ムルハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ

且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵
營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ全上但書
刪除ス

第四條 全上
刪除

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製
作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方官ト

協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ
第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地
方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ム

ルルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルイテ得
但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ
許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カ
ス若クハ病者ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病
院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書
ノ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘ
シ十五年第四十七號ヲ以テ病名貼付
ノ儀ハ當分施行セサル旨ヲ布告ス
但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ
消毒法ヲ行ハサル、間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシム
ヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫
ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム
ヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リ

ニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス
但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テス其遺骨ハ改葬スル
モ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ
病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ
用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ廁
園、芥溜、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ
注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルルハ船舶交通ノ地方ニ於
テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死
者アルルルハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルルハ地方長官ハ
内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官
吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト
ナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得
此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル

病ヲ診斷スルハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ十五年第四十八號布告

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場

等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ曼

延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷

シ得ヘキモノト見認ムルハ地方官ヨリ内務卿ニ

稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得十五年第五十八號布告ヲ以テ第二項ヲ追加ス

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ斷スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及

ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢納流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第

十二條ヲ適用スヘシ

實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用

シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル者ハ燒棄若クハ埋

却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルハ第十條第十一條

ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四

條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ十三年第五十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル

車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及

第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカ

ラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ十五年第四十八號

墓地及埋葬取締細則

布告ヲ以テ
全條改正

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

○墓地及埋葬取締細則

○甲百五十號 明治十七年十二月二十六日

本年十月太政官第二十五號布達墓地及埋葬取締規則第八條ニ依リ別紙ノ通細則相定候條此旨布達候事

(別紙)

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ハ從前許可セシ區域ニ限ル若シ町村共有墓地ニシテ止ムテ得サル事情アツテ之ヲ取廣メ又ハ新設セントスルハ其事由及ヒ地種地目反別

等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面並ニ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ町村會ノ評決ヲ經タル旨ヲ附記シ町村長地主(取廣メ又ハ新設セントスル地ノ地主ヲ云フ)管理者連署ノ上所轄警察署又ハ分署ヲ經由本縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ(十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)

但一已若クハ數人共有ノ墓地ハ從前許可セシ區域ノ外何等ノ事情アルモ之ヲ取廣メ又ハ新設スルコトヲ許サス

第二條 共有火葬場ヲ新設シ又ハ之ヲ取廣メ若クハ改造セントスルハ其地種地目反別及ヒ構造方法等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ共有者(町村共有ニ係ルモノハ前條ノ手續ニ依リ町村長ヨリ)三名以上地主(取廣メ又ハ新設セントスル地ノ地主ヲ云フ)管理者連署印シ町村長與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由本縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ

但建造物ノ改造ニ止ルモノハ本文地種地目反別ノ取調及ヒ接續地主ノ承諾書等ヲ要セス(上全)

第三條 現在ノ墓地火葬場ヲ廢止セントスルハ其事由及ヒ墓地ハ現在墳墓ノ移轉方法等ヲ詳記シ前條ノ手續ニ準シ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 火葬場ヲ新設シ火葬ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其地種地目反別及ヒ構造方法等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ借地ヲケレハ其地主連署ノ上町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ取廣メ若クハ改造セントスルトキ亦全シ

(二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)

但建造物ノ改造ニ止ルモノハ本文地種地目反別ノ取調及ヒ接續地主ノ承諾証等ヲ要セス

第五條 火葬營業者改氏名又ハ代替轉居等ノ節ハ戶長衛生委員ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ヘ願出ヘシ

第六條 火葬營業者火葬場ヲ賣買讓與シタルハ直チニ双方連署(借地ナレハ其地主トモ)ノ書面ニ町村長ノ與印ヲ受

ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ本縣廳ヘ願出ヘシ

(二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)

第七條 墓地ヲ設置スルハ國道縣道鉄道大川其他人家ヲ隔ルル凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障リナキ地ヲ撰ムヘシ

第八條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ト非サル地下ノ境界ヲ云フ)ニ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木屏牆ヲ存スヘカラス但從前ヨリ現存スルモノハ此限リニアラス

第九條 町村共有墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルルヲ得若シ其町村ニ共有墓地ナキハ最寄町村共有墓地ニ葬ルルヲ得但死刑ニ處セシメタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スルモノトス

第十條 火葬場ハ人家及ヒ人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ニテ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ其周圍ニ屏牆ヲ設

クヘシ(十八年甲第八十七號布達ニテ火葬場ノ下ヲ新設スルノ五字ヲ削除ス)

但山林原野ニシテ人家ヲ隔タル場所ハ本文ノ裝置ヲ要セスト雖モ適宜見隠ヲ設クヘシ

第十一條 町村共有ノ墓地及火葬場ハ町村長ニ於テ管理者ヲ定ムヘシ其他ハ所有者ニ於テ之ヲ定メ其住所氏名ヲ町村役場ヘ届出ヘシ變更シタル亦同シ(二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)

第十二條 管理者ハ時々墓地又ハ火葬場ヲ見廻リ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ墓碑又ハ火爐煙筒其他屏障等ノ崩壞セシトスルモノアルヲ見認ルルハ速ニ補修ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セシトスル者ハ死亡届書ニ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘ町村役場ヘ届出認許証ヲ受ケ墓地又ハ火葬場ノ管理者ヘ差出スヘシ(二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)
但火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルハ別ニ認許証ヲ受ケルコト及ハス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ前條主治醫ノ死亡届書ニ代フルニ左ノ証書ヲ添付スヘシ

- 一 主治醫事故アルルハ他ノ醫師ノ檢査証書
- 一 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢査証書
- 一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルルハ醫師若クハ産婆ノ死産証書
- 一 變死ニ係ルルハ立會醫師ノ檢査証書

- 但檢視官ノ檢印ヲ要ス
- 一 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セシトスルルハ獄醫ノ死亡証書寫
- 但司獄官ノ檢印ヲ要ス

第十五條 改葬セントスル者ハ改葬願書ニ墓地管理者連署ノ上町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ノ証ヲ受ケ其改葬スヘキ墓地ノ管理者ヘ差出スヘシ(二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正)

第十六條 管理者ニ於テ第十三條第十五條ノ証書ヲ

受取リタル片ハ其余白へ埋葬又ハ火葬若クハ改葬
 セン年月日時ヲ記入捺印シ毎三ヶ月(三月六月九月十二月)分取
 纏メ翌月十日限リ所轄警察署又ハ分署へ差出シ檢
 印ヲ受ケ町村役場へ差出スヘシ(上全)
 但一已墓地へ埋葬又ハ改葬スルモノハ其都度本
 文全標ノ手續ヲ爲スヘシ
 第十七條 現ニ墓主ナキ墳墓ト雖モ濫ニ墓碑ヲ取除
 キ又ハ他へ移轉スルコトヲ許サス若シ止ムヲ得サル
 事情アリテ他へ移轉セント欲スル片ハ其事由ヲ詳
 記シタル書面ニ町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又
 ハ分署へ願出許可ヲ受クヘシ(上全)
 第十八條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ
 第十九條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地
 ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏
 スルモノハ此限リニアラス
 第二十條 誌名傳贊等ヲ刻シタル碑表ヲ建設セント
 欲スル者ハ其地種地目並ニ碑文及ヒ碑表ノ寸法材

質等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面ヲ添へ地主(地籍
 管理)連署シ町村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分
 署へ願出許可ヲ受クヘシ(二十二年縣令第六
 十號ヲ以テ改正)
 但死者ノ姓名族藉官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月
 日建設者ノ姓名等ヲ刻スルニ止マル墓碑ヲ墓地
 内へ建設スルハ許可ヲ受クルニ及ハス
 第二十一條 墓碑又ハ火爐烟筒屏牆等ノ構造不完全
 ニシテ危險若クハ衛生上妨害アリト見認ル片ハ修
 繕又ハ取除ヲ命スルコトアルヘシ
 但火葬場修繕中ハ時宜ニ依リ使用ヲ停止スルコ
 トアルヘシ
 第二十二條 共有墓地管理者ハ墓地ノ圖面並ニ墓籍
 帳ヲ調製シ該帳簿ニハ左ニ記列シタル事項ヲ遺漏
 ナク記入シ保存スヘシ
 一 墓主ノ住所氏名
 一 死亡者ノ住所氏名
 一 死亡者ノ法號又ハ諡號

一 埋葬又ハ改葬ノ年月日
一 墓碑建設ノ年月日

第二十三條 時機ニ依リ警察官ハ葬儀場へ臨監又ハ死体ヲ檢案スルヲアルヘシ

第二十四條 墓地及埋葬取締規則並ニ此細則第十七條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

死亡届書

父(又ハ何々)

氏

名

年 齡

右本日午前(又ハ午後)第何時病死(又ハ變死)致候ニ付何郡何村字何々墓地(又ハ火葬場)へ埋葬(又ハ火葬)致度仍テ別紙主治醫某ノ死亡届書(又ハ醫師某ノ檢案書)相添御届仕候條埋葬(又ハ火葬)認許証御下渡被下度候也

住所身分職業

年號月日

氏

名 印

何郡何村

町村長氏名殿

死産届書

(二十二年縣令第六十號ヲ以テ書式中戸長トアルナ町村長トシ凡テ奥印ノ例ヲ删除)

妻(又ハ何々)

氏

名

右妊娠何ヶ月ノ處本日午前(又ハ午後)第何時男子(又ハ女子)死産致候ニ付何郡何村字何々墓地(又ハ火葬場)へ埋葬(又ハ火葬)致度仍テ別紙醫師(又ハ産婆)某ノ死産証書相添御届仕候條埋葬(又ハ火葬)認許証御下渡被下度候也

住所身分職業

年號月日

何郡何村

町村長氏名殿

改葬願書

父(又ハ何々)

右去ル何年何月何日死亡致條ニ付該死屍又ハ火葬ノ
 上該遺骨ヲ何郡何村何字何々墓地へ埋葬(又ハ埋藏)致置
 候處今般何々ノ事故有之候間何郡何村何字何々墓地へ
 改葬致度仍テ改葬御免証御下渡被下度此段奉願候
 也

氏名

年號月日

住所身分職業

名印

何郡何村何字何々墓地
 管理者(現在埋葬又ハ埋藏スル
 墓地ノ管理者ナリ)

氏名印

滋賀縣
 何警察署(又ハ何分署)

御中

(參考)

○太政官第二十五號布達 明治十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域
ニ限モノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受
ヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレ
ハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ
埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ
受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ
認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサ
レハ改葬ヲナスヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行クヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スルヲ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右布達候事

○甲第百十八號 明治十八年八月十二日

傳染病死體ト雖モ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス候處病毒ノ豫防ニ要用ナル場合ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ受ケ二十四時間以内ニ埋葬又ハ火葬スルヲ得此旨布達候事
但本條ノ場合ニ於テハ掛官吏ニ於テ之レヲ指揮シ時間ニ拘ハラヌ埋葬又ハ火葬セシムルコトアルヘシ

○水車營業規則

○甲百十號 明治十五年六月十六日

水車營業規則別紙ノ通り相定本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前布達達指令等別紙規則ニ抵觸スル者ハ總テ消滅候儀ト可心得事

(別紙)

水車營業規則

第一條 水車營業ヲナサントスルモノハ左ノ項目ヲ詳記シ水路及近傍地景ヲ明瞭ニ縮寫シタル畫圖面相添地元ハ勿論水路ニ沿フ上下町村戸長ノ與印ヲ以テ郡役所ヘ願出テ免許ヲ受クヘシ
一 水車設置ノ町村名字番號
一 水路ノ字
一 車輪ノ寸法
一 獨又ハ粉挽白ノ數
一 他ノ機關ニ用ユルモノハ其所ノ詳細
一 年中稼ニアラサルモノハ其稼月數及事由

第二條 水車設置ノ場所ヲ移轉シ又ハ確白ノ數ヲ增減シ(他ノ機關ニ用ユルモ) 稼月數ヲ伸縮セントスルモノハ(ハ其機關ノ變更増減) 第一條ノ手續ヲ以テ郡役所へ願出免許ヲ受クヘシ但場所移轉ノ外ハ畫圖面ヲ添ルニ及ハス

第三條 水車ヲ賣買讓與シタルトキハ賣買又ハ讓渡人讓受人連署シ地元戸長ノ奥印ヲ以テ郡役所へ届出ヘシ

第四條 水車營業免許ヲ得テ起業スルモノト雖モ他ノ妨害ヲ生スルキハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 水車ニ賦課スル地方稅ハ營業稅雜種稅賦課規則ノ通りタルヘシ

第六條 第一條第二條ノ手續ヲ爲サズシテ水車ヲ新設シ又ハ移轉シ確白其他ヲ増減變更シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

(參考)

○甲第三百三十八號 明治十五年十月四日
自用ノ水車ト雖モ新設移轉又ハ確白其他ヲ増減變更スルキハ都テ本年六月甲第三百十號布達水車營業規則ノ通可相心得此旨相達候事

○營廻受賣規則
○縣令第四十一號 明治二十一年二月廿一日

營廻受賣規則左ノ通相定ム

營廻受賣規受

第一條 營廻受賣ヲサントスルモノハ左ノ條項ヲ遵守スヘシ

第二條 營廻受賣カハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ

○營廻受賣所
何縣何國何郡何村何 某

木質適宜
寸法 縦三尺
横八寸

第三條 受賣者ハ買入帳及賣上帳ヲ調製シ左ノ件々

營廻受賣規則

ヲ記載スヘシ

第一 買入帳

此帳簿ニハ醫麴買入石數營業人ノ住所氏名年月日等遺漏ナク記載スヘシ

第二 賣上帳

此帳簿ニハ自用者ノ住所氏名年月日賣渡シタル醫麴ノ數量鑑札番號等遺漏ナク記載スヘシ

第四條

前條ニ記載シタル帳簿ハ毎年十月其區租稅檢査員派出所ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

但檢査ヲ受ケタル帳簿ハ營業中保存スヘシ

第五條

受賣者不在若クハ事故アルトキハ相當代理者ヲ定メ置クヘシ

第六條

自用者ハ醫麴ヲ販賣スルトキハ自家用料酒製造免許鑑札ヲ認メタル上ニ非サレハ賣渡スルコトヲ許サズ

第七條

醫麴受賣所ハ隨時主任官ニシテ賣買ニ係ル帳簿及ヒ現在醫麴ノ石高營業場等ヲ檢査セシメ時

宜ニヨリ其他ノ場所ト雖モ點檢セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ受賣人若クハ代理者案内ヲナスヘシ

第八條 受賣者ニシテ第四條ニ記載シタル帳簿ノ登記ヲ怠リ又ハ詐偽ノ記載ヲナシタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○ 自家用料酒免許鑑札ヲ檢セスシテ醫麴ヲ賣渡スヘカラサル禁令

○ 縣令第四十二號 明治二十一年二月廿一日

醫麴受賣人ニシテ自家用料酒製造免許鑑札ヲ點檢ス自用者ハ醫麴ヲ賣渡シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○ 酒造營業者取締

○ 甲第五十九號 明治十六年五月三十一日

酒造營業者ニシテ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘク候條此旨布達候事

酒造營業者取締

- 一 酒醪ノ不用ニ屬シタルモノ全業者中賣買チナサントスル時検査ヲ受ケサル者(十七年甲第三十七號布達ヲ以テ改正)
 - 二 検査ヲ經サル醪ヲ搾リタル者(二十一年縣令第四十九號ヲ以テ更正)
 - 三 検査ヲ受ケスシテ二類酒三類酒ノ製造ニ用ユル元粕及ヒ酒類ヲ使用シタル者
 - 四 造石検査ノ以前ニ於テ酒類ノ火入滓引等ヲ爲シタル者
 - 五 酒類ノ粕澆ヲ爲スル検査ヲ受ケスシテ着手シ又ハ之ヲ搾リ揚ケ検査ヲ受ケスシテ販賣自用贈與等ニ供シタル者
 - 六 検査未済ノ酒類ヲ覆ヘシ又ハ漏洩シタル等ノ非直チニ届出サル者
- 米質改良組合取締規則
- 縣令第二百四十七號 明治二十年十二月廿七日
- 米質改良組合取締規則左ノ通相定ム
- 米質改良組合取締規則
- 第一條 米質改良組合ハ縣下ニ於テ自ラ米穀ヲ作り

米質改良組合取締規則

- 又ハ他人ヲシテ作ラシメ他ニ販賣スルモノ及米穀ノ賣買ニ從事スルモノヲ以テ組織スヘシ
- 第二條 自ラ米穀ヲ作り又ハ他人ヲシテ作ラシムルモノニシテ他ニ販賣セサルモノト雖モ苟モ米穀ヲ以テ他ノ物品ニ交換シ又ハ物品買入ノ代料ニ供シ若クハ小作米トシテ地主ニ納ムルモノハ渾テ前條ヨリ組織シタル組合ニ加入スヘシ(二十二年縣令第三十七號ヲ以テ改正)
- 第三條 米質改良組合ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ取締所ヲ設ケ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ總轄スヘシ
- 第四條 米質改良組合ハ縣下ヲ數部ニ分チ各部ニ取締所ノ出張所ヲ設ケテ取締所ノ事務ヲ分擔シ併テ其部内限リ設ケル所ノ規約ノ實施ヲ管理スヘシ
- 但各部ノ區域ハ郡役所々轄外ニ跨ルヲ得ス
- 第五條 組合ニハ相當ノ役員ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ許クヘシ
- 但時宜ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ
- 第六條 組合役員ハ勸業委員其他同業者外ヨリ撰舉

スルヲ得

第七條 組合員ハ組合證票ヲ携帯スヘシ

第八條 組合ニ係ル費用ハ組合員之ヲ負擔スヘシ
但他人ノ地所ノミチ小作スルモノ及第二條ニ該
當スルモノハ此限ニ非スト雖モ米穀検査ニ係ル
費用ハ之ヲ負擔スヘシ(二十二年縣令第三十
七號ヲ以テ但書改正)

第九條 組合員ハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ設ケ縣廳ノ
認可ヲ受クヘシ

- 一 米質及調製ノ改良ヲ圖ル事
- 一 俵裝ヲ完全ニシ榊入及榊ノ種類ヲ一定スル事
- 一 現品ニ營業人ノ住所氏名ヲ記シタル證票ヲ添付
スル事
- 一 検査方法ヲ定ムル事
- 一 品質ノ良否其他ニ依リ俵面ヘ一定ノ記號ヲ付ス
ル事
- 一 他府縣產ノ米穀取扱ノ方法ヲ定ムル事(二十三年縣令第
十號ヲ以テ追加)
- 一 小作者獎勵ニ係ル方法ヲ定ムル事

一 取締所及出張所ノ位置

一 役員撰擧法及任期

一 全上事務條項及權限

一 諸費豫算及賦課方法

一 會議ニ關スル規程

一 違約者處分法

一 前諸項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第十條 前條ニ掲クル各項ノ事ニ關シ各部限リ必要
トスル事項ハ其部内組合員ノ協議ヲ以テ規約ヲ定
メ取締所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但本條ニ據リ規約ノ認可ヲ受ケタルトキハ其規
約書ヲ添ヘ所管郡役所ヘ届出ヘシ

第十一條 各出張所ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ常ニ
監督シ若シ異狀アルトキハ其時々具申スヘシ

第十二條 第一條第二條ニ掲クル組合員タルヘキ者
ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサルモノハ
違警罪トシ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ以ハ拾

錢上以壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ(二十二年縣令第三十七號ヲ以テ改正)

附則

一本條ニ據リ設定スヘキ組合及規約ハ來明治二十一年六月三十日限リ取設ケ認可ヲ受クヘシ
一前項組合及規約設定ノ爲メ每郡三名ノ委員ヲ撰舉シ同年五月三十一日迄ニ其住所姓名ヲ縣廳ヘ届出ヘシ

但滋賀郡大津市街ニ限リ本項定員ノ外更ニ米商人中ニ於テ三名ノ委員ヲ撰舉スヘシ

一委員撰舉ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ取扱フヘシ
一本則ハ同年米穀ノ收穫ヲ期トシ實施スルモノトス

○蠶糸業組合規則

○甲第七十七號 明治十八年十二月廿一日

今般蠶糸業組合規則左ノ通相定メ來明治十九年二月ヨリ實施候條此旨布達候事

但明治十七年本縣甲第百廿四號並同十八年甲第八

十九號布達ハ本文實施ノ日ヨリ廢止ス
蠶糸業組合規則

第一條

縣下ニ於テ蠶糸業養蠶製絲蠶繭繭真綿生皮等與斗糸等ニ從事スルモノハ製造人ト賣買人トヲ不問都テ此規則ニ準據スヘシ
但自用ノ爲メ製造スルモノハ此限ニアラス

第二條

蠶糸業者ハ最寄郡町村ニ於テ聯合組合ヲ設ケ其名稱ハ滋賀縣下何郡何數町村聯合ノモノハ何郡東西南北等ノ次第ヲ以テ區別スヘシ蠶糸業組合ト稱スヘシ

第三條

組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第一項 繭ハ春夏秋若クハ黃白及種類(蠶子青繭赤繭小石丸等)又

ハ大陽殺蒸殺燥殺等ヲ混淆シタルモノヲ賣買セサル事

第二項 製糸ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

- 第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全良ナラシムル事
- 第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事
- 第五項 繭ヲ荷造シテ他ニ轉出スル時ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第六項 生糸眞綿ノ製造及結束其他生皮等尉斗糸等ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事
- 第七項 生糸眞綿等ノ結束用品及裝束方ヲ一様ナラシムル事
- 第八項 全上結束用品ニ撚紙元結麻等ヲ用フルモノハ賣買上歩引ノ量目ハ二分五厘以内ヲ定ムル事
- 第九項 綾取アル揚簍ヲ用ヒ且ツ寸法總ノ目量ヲ一定ナラシムル事
- 第十項 一梱一認若クハ一把中良否混淆ハ勿論他物又ハ鼠喰汚糸等ノ惡品ヲ藏蔽シタル不正ノ品ヲ賣買製造セサル事

- 第十一項 第八項ノ結束用品ニハ記號若クハ住所姓名ヲ印シ其自己ノ製品タルヲ徴スルニ足ルノ方法ヲ設クル事
- 第十二項 提造島田造折返等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事
- 第十三項 生糸改良ノ方法及海外輸出糸ノ統合検査手續並ニ其手數料ヲ定ムル事
- 第十四項 生糸ヲ荷造シ他ニ輸出スルキハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第十五項 蠶種及其出殼繭ヲ併セテ検査スルノ方法ヲ設クル事
- 第十六項 蠶病ヲ豫防スルノ方法ヲ設クル事
- 第十七項 連接繭ヲ蠶種用ニ供セサル事
- 第十八項 蠶種ニハ必春夏秋ノ區別並ニ其種類組合ノ名稱製造人販賣人ノ住所姓名其他良否ノ検査ヲ記印シ又ハ保證票ヲ貼付スル事

第十九項 同上量目及其用紙ヲ一定スル事
 第二十項 粗悪ノ蠶種ヲ製造賣買セサル事
 第二十一項 工男女取締ニ關スル事
 第二十二項 違約者及違約品處分方法ノ事
 第二十三項 會議ニ關スル規定ノ事
 第二十四項 收支豫算及賦課方法ノ事
 第二十五項 役員ノ撰擧法及權限並ニ處務順序ノ事
 第二十六項 前各項ノ外組合中ニ於テ必要トスル事項

第四條
 組合員ハ製造人ト賣買人トナ不問必其組合ノ証票ヲ
 携帯スヘシ
 但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條
 賣買ニ從事スルモノハ前條組合証票ノ外別ニ商業証
 票ヲ携帯スヘシ

第六條
 縣下便宜ノ地ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ各組合ヲ統轄シ

組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第七條
 組合ニハ委員取締所ニハ頭取々締ヲ撰擧シ縣廳ノ認
 可ヲ受クヘシ若シ本縣ニ於テ不適任ト見認メタル場
 合ニハ更ニ改撰ヲ命スルヲアルヘシ

第八條
 取締所ニ於テハ全業者中ヨリ製糸製種ノ検査役ヲ撰
 定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
 但時宜ニヨリ本縣ニ於テ撰定スルヲモアルヘシ

第九條
 組合委員並ニ取締所役員ハ勸業委員其他同業者外ヨ
 リ撰擧スルヲ得ヘシ

第十條
 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査スヘシ

第十一條
 各府縣蠶糸業組合取締所ト協議ノ上便宜ノ地ニ蠶糸
 組合中央部ヲ設ケ彼是ノ氣脈ヲ通スヘシ

第十二條 組合及取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條

蠶糸業者ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサル者ハ違警罪トシテ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○織物業取締規則

○甲第百八十五號 明治十八年十二月廿六日

織物業取締規則別紙ノ通相定來明治十九年三月二日ヨリ實施候條此旨布達候事

(別紙)

織物業取締規則

第一條 織物業ヲ分テ左ノ四種トス(十九年甲第二十六號布達ヲ以テ第一條改正)

- 第一種 縮緬及絹縮
- 第二種 麻布

第三種 蚊帳

第四種 木綿縮

第二條 縣下ニ於テ前條織物業ニ従事スル者ハ製造人ト賣買人トヲ問ハス都テ此規則ニ準據スヘシ

但自用ノミニ供スル者ハ此限ニアラス

第三條 營業人ハ一種毎ニ一ノ組合ヲ設ケ左ノ各項ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ改正増補ノ時亦同シ

第一 織物ノ尺幅及織付歩引耳糸等其種類ニ應シ一定シ且ツ織留ノ証ヲ設クル事

第二 織物ノ元料ヲ精撰シ不正若クハ粗惡品ヲ用サル事

第三 染色ヲ改良シ不正若クハ染惡ナル染料ヲ用ヒサル事

第四 製品ニ製造人ノ住所姓名及品質等ヲ詳記シタル証票ヲ貼付シ且ツ検査ノ方法ヲ設クル事

第五 製造人ト賣買人及備主ト職工ノ關係ヲ一定

- スル事
- 第六 違約者處分方法及職工獎勵ニ關スル事
 - 第七 諸費豫算及徵收方法ノ事
 - 第八 諸役員ノ事務條項及權限
 - 第九 諸役員ノ給料及旅費等ノ定額
 - 第十 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
 - 第四條 各種組合ニハ一種毎ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ整理スヘシ
 - 第五條 取締所ニハ同業者ノ投票ヲ以テ相當ノ役員ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第六條 取締所ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ
 - 第七條 各組合員ハ其組合ノ証票ヲ携帯スヘシ
 - 第八條 各組合取締所ハ毎年一月中其前年分ノ事蹟及費用決算表ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第九條 營業人ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○同業組合準則

○甲第四百十號 明治十七年十二月九日

營業上福利ヲ增進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スル爲メ同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定ムル者ハ自今別紙同業組合準則ニ可準此旨布達候事

(別紙)

同業組合準則

- 第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル時ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

- 第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 第一項 組合ヲ組織スル業名及ヒ組合ノ名稱
 - 第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置
 - 第三項 目的及方法
 - 第四項 役員ノ撰擧法及權限
 - 第五項 會議ニ關スル規程
 - 第六項 加入者及ヒ退去者ニ關スル規程
 - 第七項 費用ノ徵收及賦課法
 - 第八項 違約者處分ノ方法
- 右ノ外組合ニ於テ必要トナス事
- 第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
 - 但事業ノ模樣及ヒ趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ域ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルキハ縣廳ノ認定ヲ請フヘシ
- 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

- 第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ
- 第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ受クヘシ
- 第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り認可ヲ受クヘシ
 - 但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
- 第十條 組合員ハ組合ノ檢印ヲ押捺シテ業名票ヲ店頭ニ掲クヘシ(十九年甲第三十八號) (布達ヲ以テ追加)
- 市場取締規則
- 甲第三號 明治十九年一月二十八日
 - 市場取締規則別紙ノ通相定候條從來開設致尙繼續セントスルモノハ來ル二月二十八日迄ニ夫々決定ノ上本廳ニ可申出此旨布達候事
 - 但明治十五年一本縣甲第十五號第三條第一項及全

年月甲第十六號布達ハ廢止候事

(別紙)

市場取締規則

- 第一條 市場ヲ分テ左ノ三種トス
 - 第一種 常ニ時日及場所ヲ定メ賣買主ノ中間ニ立テ物品ノ競賣ヲナスモノ
 - 第二種 常ニ時日及場所ヲ定メ物品ノ出賣ヲ爲スモノ
 - 第三種 臨時前二種ノ市場ヲ開設スルモノ
 - 但營業ニアラサル自家ノ物品ヲ一時競賣スルモノハ此限ニアラス
- 第二條 第一種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ左ノ各項ニ據リ規程ヲ定メ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ
 - 一 賣品ノ種類及取扱手續
 - 一 開市ノ日時並ニ市場ノ位置
 - 一 物品受渡順序
 - 一 口錢其他手数料等ノ定額

一 賣上金ノ収入及荷主ヘ勘定ノ手續

一 前各項ノ外市場ニ關スル規程

第三條 第二種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ前條第一項第二項第四項若シ之アヲハ(第六項ニ據リ規程ヲ定メ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ)

第四條 第三種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ其位置及開市ノ時日並賣品ノ種類等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ所管警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ
(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ挿入第五第七條亦全シ)

第五條 第一種及第二種ノ市場開設ノ許可ヲ得タル時ハ其旨所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第六條 同町村及隣接町村ニ於テ同性質ノ市場ヲ開設スルモノニシテ營業上保護ニ必要ト認ムルトキハ特ニ免跡區域ヲ指定シ又ハ雙方ヘ規約ノ締結ヲ命スルコトアルヘシ若シ其命ヲ拒ミ又ハ遷延スルトキハ其一方若クハ雙方ノ市場ヲ停止スヘシ
(二十二年縣令第二百四十九號ヲ以テ改正)

第七條 第二種ノ市場開設スルニ多人數組合若クハ數町村相合スル時ハ相當ノ役員ヲ定メ市場ニ關スル取締ノ責ニ任セシメ且其住所姓名ハ縣廳及所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第八條 第一種ノ市場ヲ開設スルモノハ毎年一月中其前年分市場ノ景況及賣上金高口錢手數料等ノ明細表ヲ製シ縣廳ヘ報告スヘシ

第九條 此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○陸上用蒸氣機關檢査規則

○縣令第二百十五號 明治二十年十一月一日

陸上用蒸氣機關檢査規則左ノ通相定ム

但從來蒸氣機ヲ使用スル諸工場其他ハ本則第一條ニ準シ來明治二十一年三月三十一日迄ニ願出スヘシ
陸上用蒸氣機關檢査規則

第一條 諸工場其他ニ於テ蒸氣機關ヲ使用セントスルモノハ使用前本則第一號書式ニ據リタル願書ニ

四隣接續^{構外四方三}家主ノ承諾書ヲ添ヘ檢査ヲ願出ヘシ

但明治十九年^{十月十二}縣令甲第五十二號家屋建築規則施行區域外ニ係ルトキハ工場ノ構造方法ヲ詳記シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條 檢査ノ上危險ト認ムルトキハ修繕又ハ改造ヲ命ス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ速ニ修繕又ハ改造ヲ爲シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第四條 每氣罐ニハ火床面積一平方呎ニ付二分ノ一平方吋ノ割合ヲ以テ二個ノ安全瓣ヲ備ヘ内一個ハ鎖鑰ヲ設クヘシ

第五條 安全瓣ノ鎖鑰ニハ檢査済ノ上檢査官於コテ封鎖シ私ニ開閉スルヲ禁ス

第六條 罐檢査ノ上檢定シタル最大氣力ヲ増加スルコトヲ禁ス

第七條 新ニ瀛罐ヲ増設セントスル者ハ本則第一條ニ隨ヒ又機械瀛罐ノ要部ヲ修理若クハ改造セントスルトキハ直ニ届出検査ヲ受クヘシ出來ノ上モ亦全シ

第八條 定期検査トシテ毎年三四兩月間ニ検査官ヲ派シ検査ヲ執行ス其検査済ノモノハ本則第二號離形ノ検査假證書ヲ下附シ追テ第三號離形本證書ト引換交附スヘシ

第九條 臨時検査トシテ検査官ヲシテ臨時巡視セシムルコトアルヘシ此際検査官ニ於テ瀛機ニ危險ノ掛念アリト見認ムルトキハ其使用ヲ中止シ審査ノ上修理等ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 本則第三條及第七條后段ノ場合ニ於テ検査済ノ上己ニ下付シタル検査證書面ニ變更ヲ生シタルトキハ本則第八條后段ノ手續ヲ爲シ其變更セサルモノハ證書裏面ヘ検査官ニ於テ其事故ヲ記載シ檢印ノ上之ヲ交付スヘシ

第十一條 検査證書ハ諸人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條 瀛機瀛罐ノ事ニ從ハシムル主任者ハ其族籍姓名及履歴ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本廳ヘ願出認可ヲ受クヘシ雇換ノ都度亦全シ

第十三條 廢業轉居其他身分ニ異動アルトキ及ヒ瀛機瀛罐ニ異狀アルトキハ直ニ届出ヘシ

第十四條 本則第一條第三條第五條第六條第七條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

(第一號書式)

蒸瀛機關検査願

一工場(其他)所在

一工場(其他)名稱及種類

一所有主

一 汽罐ノ種類及員數
 一 最大汽力
 一 機械ノ種類及員數
 一 公稱馬力
 一 汽機製造年月
 一 汽機製造所(人)名
 右者今般新設營業致度候間何月何日御出張ノ上御
 検査被成下度願上候也
 年月日
 縣知事宛
 所有主 氏 名印

(第一號離形)

六寸

| | | | |
|---|---|---|---|
| 種 | 効 | 證 | 番 |
| 類 | 期 | 書 | 號 |
| 機 | 限 | 有 | |
| | | | |
| 馬 | 氏 | 所 | 工 |
| 公 | 所 | 在 | 場 |
| 力 | 名 | 地 | 所 |
| 稱 | 主 | 名 | |
| | | | |

右検査ノ上此假證書ヲ附與スルモノ也
 滋賀縣
 明治年月日
 官 氏 名

水ヤ田太

| | |
|---|---|
| 種 | 最 |
| 類 | 大 |
| 罐 | 壓 |
| | |

(第三號離形)

六寸

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 種 | 種 | 効 | 證 | 番 |
| 類 | 類 | 期 | 書 | 號 |
| 罐 | 機 | 限 | 有 | |
| | | | | |
| 最 | 馬 | 氏 | 所 | 工 |
| 大 | 公 | 所 | 在 | 場 |
| 壓 | 稱 | 名 | 地 | 所 |
| | 力 | 主 | 名 | |
| | | | | |

右検査ノ上本書期限内使用ニ適當ナル報告ヲ得ルニ依

旅客和船取締規則

此證書ヲ附與スルモノ也

明治年月日

滋賀縣

○旅客和船取締規則

○甲第三十六號 明治十八年三月十一日

旅客和船取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月十五日ヨリ實施候條此旨布達候事

但從前營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本文日限マテニ願出免許ヲ受クヘシ

(別冊)

旅客和船取締規則

第一條

湖上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ乘載シ渡航ヲ營業スルハ從來早船ト稱スル甲板ヲ備フル船ニシテ船體間三間以上ノモノニ限ルヘシ
但近傍小渡ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第二條

前條早船營業ヲ爲サントスル者ハ其船名船體及ヒ附屬品並ニ乗組人員發着寄港等ヲ詳記シ其定繫港所轄ノ警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正)

但結社營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ其目的及ヒ資本募集等ノ方法ヲ詳記シタル願書ヲ以テ所轄郡役所ヲ經由シ本縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條

早船ハ船體堅牢ニシテ所轄警察署又ハ分署ノ免許証ヲ受ケ平常船燈號角豫備ノ艙櫓其他相當ノ附屬品ヲ整備シタルモノニアラサレハ運航スルコトヲ得ス(二十二年縣令第二十九號ヲ以テ挿入改正)

但免許証ハ客室ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第四條

早船ハ船梁ヨリ船梁迄ノ間面積三坪未満ハ櫓四挺水夫五人ヲ備フヘシ三坪以上一坪ヲ増ス毎ニ櫓一挺水夫一人ヲ増スヘシ
其水夫ハ強壯ニシテ實業ニ耐ユル者ニ限ルヘシ

第五條 早船ハ舳梁ヨリ艦梁マテノ間ニ於テ適宜容
室ヲ設ケ判然荷室ト區域ヲ立テ一坪(六尺四方)ニ
乗客八人ヨリ超過スヘカラス(十八年甲第六十二
號ニテ改正)
但客室外へ客ヲ乗セ又ハ客室内へ荷物ヲ載スヘ
カラス

第六條 早船ヲ用ヒス近傍小渡船營業ヲ爲サント
スル者ハ其船体乗組人員及ヒ發着港等ヲ詳記シ其
定繫港所轄ノ警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受クヘ
シ(二十二年縣令第二
十九號ヲ以テ改正)
但免許証ハ船中見易キ所ニ釘付スヘシ

第七條 前條小渡船乗客人員ハ舳梁ヨリ艦梁マテノ
間面積一坪(六尺四方)八人ヨリ超過スヘカラス
第八條 早船及ヒ小渡船ノ賃錢ハ最寄同業者ニ於テ
協議ノ上相定メ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ變
更シタルハ亦全シ(上全)
但早船ハ出船時刻ヲモ届出ヘシ

第九條 早船及ヒ小渡船營業者免許証ヲ毀失シ其他免

許証ニ列記シタル條件ニ異動ヲ生シタルハ所轄
警察署又ハ分署へ届出訂正又ハ再渡ヲ請ヒ廢業ノ
節ハ其旨届出免許証返納スヘシ(上全)

第十條 乗客及ヒ物貨ヲ取扱フニハ懇切ヲ旨トシ若シ
渡航中異變アルハ最寄警察署又ハ分署巡查駐在所
若クハ巡行警察官へ申出指揮ヲ受クヘシ此場合ニ
於テハ成ルヘク乗客及ヒ物貨ノ上陸ヲ止メ置クヘ
シ(上全)

但難破ノ節ハ難破船規則ニ從フヘシ
第十一條 渡湖中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ所
爲ヲ爲スヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ運航ヲ爲
スヘカラス

第十二條 強テ乗船ヲ勸メ又ハ乗客ニ對シ定價以上
ノ賃金ヲ請求シ或ハ客引ヲ出シ若クハ人力車夫等
ト申合其他種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルヲ
禁ス(十八年甲第六十二號達
ニテ改正)

第十三條 早船營業者ニシテ運送問屋旅籠屋等へ手

敷料等ヲ付與スルヲアルモ運賃定額ノ壹割ヨリ超過スルヲ得ス(全上改正)

第十四條 警察官ハ時々船体其他附屬品等ヲ検査シ船体ニ破損所アルカ又ハ本則ニ違背シタル廉アルトキハ時宜ニ依リ臨時運航ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ若クハ此規則第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ(全上改正)
第十六條 前條違警罪ノ處分ニ付シタルモノ其他不正ノ所爲アルキハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヲアルヘシ

○湖上漁船取締規則

○甲第百五號 明治十八年七月一日
明治十七年二月本縣甲第二十一號布達湖上漁船取締規則

則別冊ノ通改定候條此旨布達候事

但現今存在セル漁船船体ハ追テ改造ノ期ニ至リ規則第二條ノ造船法規ニ據リ改造可致候事

(別冊)

漁船取締規則

第一條 湖上ニ於テ漁船ヲ以テ旅客物貨ノ運送ヲ營業セントスル者ハ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ但シ結社營業セントスルモノハ社則ヲ添フヘシ

第二條 漁船ヲ新造セントスルトキハ本縣造船法規ニ據リ調製シタル船体仕樣帳ニ明細ナル圖面及ヒ漁船漁機明細書ヲ添ヘ本縣廳ヘ願出許可ヲ受ケ竣工ノ上ハ本則第一號書式ニ照シ届出検査ヲ請フヘシ

但シ造船法規ハ警察本署ニ就キ閱覽スヘシ

第三條 造船工事中ハ時々検査員ヲ差遣シ検査セシメ若シ造船法規ニ照シ不完全ト見認ルトキハ改造

ヲ命シ又ハ新造許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 汽船ハ左ニ記列スル端艇其他所屬品ヲ整備スルニアツサレハ航行スルコトヲ許サス

第壹 端艇ハ本則第二號表ニ適シ相當所屬品ヲ全備スルモノ

第貳 錨及ヒ錨鎖ハ本則第三號表ニ適シタルモノ

第參 柁ハ其取付堅牢ニシテ豫備ノ轉柁索ヲ船尾ニ備ヘタルモノ

第四 羅盤壹個救命浮子二個以上
但シ救命浮子ハ善良ニシテ廿四時間三十二磅ノ浮力アルモノ

第五 相當ノ消防器具

第六 汚水脚筒壹個以上

第七 汽罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ附屬品及ヒ豫備品

第八 安全每瓣罐火床面積ノ壹平方呎毎ニ貳分ノ一平方呎ノモノ二個ヲ備リ平生用ユル蒸力ニ對シ鍾量ヲ定メ内壹個ハ外套并ニ鎖鑰ヲ備ヘタルモノ

安全瓣ハ其封鎖シタルト否トヲ問ハス凡テ機關室ヨリ開キ得ヘキ裝置ヲ設ケ且ツ廢氣管ノ設ケアルモノ

但シ安全瓣ノ發條ハ試驗適合ノモノニ限ルヘシ

第五條 船體又ハ汽機汽罐其他要部ノ修理若シクハ變更ヲ爲サントスルハ其箇所及ヒ破損ノ模様等詳細届出着手シ竣工ノ上ハ更ニ届出検査ヲ受クヘシ

但シ修繕工事中ハ臨時検査員ヲ差遣シ検査セシムルコトアルヘシ

第六條 定期検査ヲ請フモノハ遅クモ期限前二十日以内ニ本則第四號書式ニ照シ本縣廳ヘ願出ヘシ檢

查ニ就テノ準備ハ前以テ相達スヘシ

第七條 定期又ハ新造検査ノ節ハ船主船長機關等
ヲ立會シメ相當検査ノ上故障ナキモノハ安全辨外
検査ニ封鎖シ本則第五號假検査證書ヲ下附シ追テ第
六號検査證書ト引換ヘ交付スヘシ

第八條 定期検査ノ外必要ト見認ル場合ニ於テハ臨
時検査員ヲシテ検査ヲ爲サシメ船体凧機等ニ故障
アリト見認ルルハ運航ヲ停止シ修繕ヲ命スルコト
ルヘシ

第九條 乗客ノ定員ハ船室ノ等級ニ據リ左ノ割合ヲ
以テ定ムヘシ

但シ乗客ノ制限ハ本則第七號離形ノ木票ヲ製シ
本縣廳ノ檢印ヲ受ケ船内各室ニ掲クヘシ

上等室 壹坪ニ付(六尺) 大人四人

中等室 壹坪ニ付(全) 大人六人

下等室 壹坪ニ付(全) 大人十人

上甲板上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付(六尺) 大人六人

小船ニシテ中等室ノ設ケナキモノ

上等室 壹坪ニ付(六尺) 大人六人

下等室 壹坪ニ付(全) 全 十人

全上甲板上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付(六尺) 大人六人

第十條 各船ノ水脚ハ必ス載貨線ヨリ超ユヘカ
ス

第十一條 船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用
ユヘカラス

但シ船体凧機ニ必用ナル「テレピン」油ノ類ハ此限
ニアラス

第十二條 航湖中他船ト先進競争シ或ハ私ニ安全辨
ノ封緘ヲ開閉スルコトヲ禁ス

第十三條 運航中他船ト衝突シ或ハ暗礁ニ乗掛ケ其
他船体凧機等ニ破損ヲ生スル等ノ異變アルルハ着
港ノ上船長ヨリ其事實ヲ最寄警察署又ハ分署ヘ届

出向ホ速ニ其景況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本縣廳
 へ届出ヘシ
 但シ難波ノ節ハ明治八年第六十六號布告内國船
 難波及漂流物取扱規則ニ據ルヘシ
 第十四條 各船出發時間及ヒ乗客物貨ノ運賃並ニ船
 長機關手ノ氏名及ヒ免狀ノ種類等ハ豫テ本縣廳へ
 届出變更シタルト同様届出ヘシ
 第十五條 客引ヲ出シ又ハ人力車夫等ト別合ヒ其他
 種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルヲ禁ス
 第十六條 運送問屋旅館等へ手数料ヲ附與スル
 アルモ運賃定額ノ一割ヨリ超過スヘカラス
 第十七條 汽船乗客及ヒ乗載セシ物貨等ニ不審ト認
 ムルモノアルカ又ハ紛失品アルトキハ可成乗客物
 貨ノ上陸ヲ見合セ置キ着港所轄ノ警察署又ハ分署
 へ届出指揮ヲ受クヘシ(二十二年縣令第八
 十五號ヲ以テ改正)
 第十八條 開廢業及ヒ造船廢船等ノ願書ニハ定額港
 戶長ノ奥印ヲ受クヘシ

第十九條 官許ヲ得スシテ營業又ハ造船シ及ヒ本則
 第四條第拾條第拾壹條第拾貳條第拾參條第拾四條
 第拾五條第拾六條第拾七條ニ違背シタルモノハ違
 警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓
 以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙ホ情狀ニ據
 リ行政ノ處分ヲ以テ一ケ年以内其船ノ運航又ハ營
 業ヲ停止スルヲアルヘシ
 第廿條 運航及ヒ營業上ニ就テハ何人ノ所爲ト雖モ
 船主又ハ船長其責ニ任スヘシ

新造汽船出來検査願

汽船 何々丸

右者豫テ御許可ヲ得造船竣工候ニ付何月何日何地
 ニ於テ出來形御検査被成下度就テハ右御検査濟ノ
 上ハ豫テ上願ノ通り何地何港ノ間運航營業致度此

段願上候也

年月日

右

船主 何
船長 何

某印
某印

滋賀縣令何某殿

(定繫港戸長與印)

(第一號)

表 艇 端

| 登簿噸數 | 噸數 | | 長 | 幅 | 深 | 容積 |
|---------|----|----|------|-----|-----|-------|
| | 第一 | 第二 | | | | |
| 二百四十噸ヨリ | 第一 | 第二 | 一四 | 五、〇 | 二、二 | 九一、〇 |
| 百二十噸迄 | 第一 | 第二 | 二〇、五 | 五、五 | 二、七 | 一四五、二 |
| 六十噸ヨリ迄 | 第一 | 第二 | 一四 | 五、〇 | 二、二 | 九一、〇 |
| | 第一 | 第二 | 一四 | 五、〇 | 二、二 | 九一、〇 |

(第三號)

表 鎖 錨 及 錨

| 噸數 | 錨 | | 錨鎖 | 錨鎖 | 錨鎖 | 錨鎖 | 錨鎖 |
|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 大 | 小 | | | | | |
| 五〇 | 三九二 | 三九二 | 七八四 | 八四 | 五六 | 一二〇 | 七五 |
| 七五 | 四七六 | 四七六 | 九五二 | 一四〇 | 五六 | 一二〇 | 七五 |
| 一〇〇 | 五六〇 | 五六〇 | 一六〇 | 一六〇 | 八四 | 一三五 | 一〇〇 |
| 一二五 | 六四四 | 六四四 | 二八八 | 一六八 | 八四 | 一三五 | 一二五 |
| 一五〇 | 七二八 | 七二八 | 四五六 | 二三四 | 一一二 | 一六五 | 一五〇 |
| 一七五 | 八二二 | 八二二 | 五六四 | 二五二 | 一一二 | 一六五 | 一七五 |
| 二〇〇 | 九一六 | 九一六 | 六四二 | 二八〇 | 一四〇 | 一六五 | 二〇〇 |
| 二二五 | 一〇一〇 | 一〇一〇 | 七三〇 | 三二〇 | 一四〇 | 一六五 | 二二五 |
| 二五〇 | 一一〇四 | 一一〇四 | 八二四 | 三六〇 | 一四〇 | 一九五 | 二五〇 |

本表ノ噸數ハ漁船ハ総噸數ノ三分ノ二ヲ取ルヘシ且其五十噸未滿
ハ本表ノ比例ニ據リ本船相當ノ錨鎖ヲ備フヘシ

(第四號)

- 一 本船々主氏名若クハ會社ノ名
 - 一 定繫場
 - 一 航路
 - 一 登簿噸數
 - 一 公稱馬力
 - 一 前期檢査ノ場所
 - 一 前期檢査證書有効期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄
 - 一 前期入渠又ハ陸上ケ檢査年月日
 - 一 前回瀛船水壓試驗年月日
- 右ノ瀛船當時何港碇泊若シクハ入渠(陸上ケ)中ニテ檢査用意相調候ニ付何年何月何日御出張御檢査被成下度此段奉願上候也

年月日 船主若シクハ船長氏 名印
滋賀縣令何某殿

第五

船 船 檢 査 假 證

| 番號 | 船名 | 船主氏名 | 航路 | 公稱馬力 | 瀛船種類 | 瀛船噸數 | 瀛壓 | 檢査場所 |
|----|----|------|----|------|------|------|----|------|
| | | | | | | | | |

前記ノ船舶明治何年何月何日檢査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以テ此檢査證書ヲ附與スル者也
但此證書ハ本文記載ノ月日ヨリ三箇月限リ無効タルヘシ

號

第

六

書

明治年月日

船體檢查主任滋賀縣船舶檢查員

何 某印

機關部檢查主任滋賀縣船舶檢查員
何 某印

船舶檢查

| 番號 | 船名 | 船主名 | 航路 | 公稱馬力 | 汽機種類 | 汽缸種類 | 汽缸數 | 噸位 | 檢地 |
|----|----|-----|----|------|------|------|-----|----|----|
| | | | | | | | | | |

號

證書

前記ノ船舶明治何年何月何日検査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船舶検査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スル者也

明治年月日 滋賀縣印

(第七號) 雛形

下等之分

用材檜 堅二尺五寸 厚サ適宜 巾一尺 但シ曲尺

中等之分 面積三分ノ二

上等之分 全 四分ノ一

縣名印

何々丸 何等室
上甲板下等室
客何人 限

○甲第六拾九號 明治十八年十二月十二日
今般本縣甲第六十八號布達湖上漁船取締規則第十
七條改正ニ付乘客ノ人名等記載スヘキ儀ハ當分大津
鹽津間及大津長濱間通航ノ漁船ニ限り施行候條此旨
布達候事
但本文ノ外通航ノ漁船ト雖モ臨時警察官吏ノ指揮
ニ依リ施行セシムル儀モ可有之事

(參考)

○明治十四年十月甲第六十二號
湖上ニ於テ旅客ノ乘航ヲ營業トナス漁船ノ儀ハ自今
左ノ通り可相心得此旨布達候事
但從前航行致來候漁船ニテ左項ニ抵觸スルモノハ
爾後一ケ年以内ニ改正可致事
一 甲板最大ノ長サ六十尺曲尺以下同之未滿ノモノ
右今濱崎堅田浦以北ニ航スルヲ得ス
一 同九十尺未滿ノモノ

右伊崎勝野以北ニ航スルヲ得ス

但伊崎勝野以北ト雖モ松原長濱間及ヒ松原鹽
津間ヲ長濱ヲ經テ往返スル小渡ニ限り同長サ
七十二尺以上ノモノヲ以テ渡航候義ハ苦シカ
ラス

一 龍骨ノ長サ六十尺未滿ノモノニシテ前兩項制限外
ノ地ニ於テ定期ノ通航ニ非ラスシテ湖邊ノ游覽其
他一時限リノ通航及ヒ内湖ト稱スル區域内ヲ限リ
通航營業セントスル者ハ其時々願出許可ヲ受クヘ
シ(明治二十一年縣令第九
十二號ヲ以テ追加)

○港川漁魚採藻泥取締規則

縣令第十六號 明治二十一年一月廿日
明治十七年九月本縣甲第九十七號布達湖川漁魚採藻泥
取締規則左ノ通改定ス
但明治十七年九月甲第百號布達ヲ除クノ外從前ノ布
達々及指令等此規則ニ抵觸スルモノハ渾テ消滅ト
ス

湖川漁魚採藻泥取締規則

第一條 管内湖川ニ於テ漁魚採藻泥ヲナサントスルモノハ都テ此規則ニ遵フヘシ

但湖川ニ聯絡セサル民有水面ハ此限リニ非ス

第二條 湖川漁魚採藻泥ノ業ヲ分ツテ二類トス

第一類

第一類 網釣 築 流シ簀 張リ網 漬柴 石漬

第二類

| | | | | |
|------|-----|------|--------|-----|
| 大網 | 中網 | 紗網 | モロコ網 | 流シ網 |
| カチ網 | 岩付網 | 菘卷網 | 胴引網 | 根摺網 |
| 小絲網 | 竹筒網 | 流シ釣漁 | 蛭取漁 | 貝曳漁 |
| 四ツ手網 | コブ網 | 採藻泥 | 竿釣漁 | 鱧 |
| サア網 | 投網 | タツヘ漁 | 一モンドリ漁 | 鮎 |
| 鹹掛 | 打網 | 押網 | 搔網 | 猪 |
| | | | | 魚 |

第三條 免許期限ヲ定ムル左ノ如シ

一 第一類漬柴石漬及第二類ノ各業ハ一ケ年(自甲午年三月三號ヲ以テ改正)限リ免許スヘシ

二 第一類釣、網釣、築、流シ簀、張網、ハ前自六月後自七月二期ニ分チ免許スヘシ

第四條 前條第一項漬柴石漬ノ免許ヲ得ントスルモノハ三月(廿一年縣令第七十三號ヲ以テ改正)限同第二類ノ免許ヲ得ントス

得ントスルモノハ前期ハ十二月後期ハ六月限リ其種目間敷場所等ヲ記載シ漁具裝置ノ圖面添付戸長ノ奥印及組合委員ノ連署ヲ要シ所管郡役所へ願出鑑札ヲ受クヘシ其組合委員ノ連署ナキ者ハ免許セス但一時遊戯ノ爲メ一竿釣ヲナスハ此限リニ非ス

第五條 釣網釣等他人ノ稼場ト入交リタルモノハ収方協議ノ上願出ツヘシ

第六條 免許鑑札ハ都テ他人ニ貸與シ又ハ賣買讓與スルヲ許サス

第七條 免許鑑札ヲ紛失シ又ハ代換リ改名轉居等ノ節ハ其旨所管郡役所へ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但滿期若クハ廢業ノ節ハ速ニ返納スヘシ

第八條 第一類ノ漁魚ハ総テ別冊ニ定ムル免許個所並ニ間敷坪數ヲ超過セスシテ左ノ各項ニ適合スルモノニ非レハ免許セス但雜魚釣ノ構造ハ方言「カンス」ウチマダゲ」ニ限ル且豎百間以上ニ及フモノハ免許セス(二十二年縣令第百九號ヲ以テ改正)

一 釣壺ニ用ユル簀ノ目ハ每段元杭ヨリ起算シタル間數ニ應シ左ノ寸法ヨリ細少ナラシムヘカラス(廿二年令第二十號ヲ以テ水涯トアルテ元杭ト改ム)

| | |
|-------------|------|
| 簀五十五間未滿 | 五分 |
| 同五十間以上百間未滿 | 六分 |
| 同百間以上二百間未滿 | 八分 |
| 同二百間以上三百間未滿 | 壹寸 |
| 同三百間以上 | 壹寸五分 |

網釣間敷ニ拘 方壹寸
 雜魚釣間敷ニ拘 貳分五厘

一 勢田川ヲ除クノ外隔年ニ免許シ甲年免許セシ場

所ハ乙年免許セス

張網

一 網目ハ方五分ヨリ細少ナラシムヘカラス

第九條 民有水面ニ於テ第一類ノ漁業ヲナサントスル者ハ都テ前條ノ制限ニ隨ヒ免許スヘシト雖其明治十七年甲第九十七號布達ニヨリ既ニ免許ヲ受ケ又ハ箇所敷坪數等ヲ届出テタル者ノ外ハ一切免許セス

第十條 張網釣壺(二十一年縣令第七十三號ヲ以テ改正)ニ用エル簀網ハ使用以前ニ所管郡役所ヘ願出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ使用スヘカラス

但破損シ修繕スルトキモ本條ニ據ルヘシ

第十一條 前條檢査ヲ受ケシテ網ハ私ニ改造シ又ハ釣壺ノ構造ヲ漫リニ變換シ若クハ間敷坪數等ヲ増延スヘカラス

第十二條 内湖入江及外湖ノ地元町村ハ左ノ特權ヲ有セシム然レモ湖川ニ拘ハラズ從來稼來リ等ノ慣

例アルモノハ其慣例ニ依リ免許スルヲアルヘシ

第一 内湖入江等ハ其沿付町村ニ於テ免許ヲ受ケタル營業人之ヲ專ラニスルヲ得ヘシ

第二 外湖水涯ヨリ十間以内ハ其地元人民ニ於テ他ノ衆ニ先チ免許ヲ受クルヲ得ヘシ

第十三條 第一項ノ營業場所ハ別紙雛形ニ倣ヒ免許年月日種目間數坪數及稼入ノ住所姓名等ヲ詳記シタル目標ヲ建設スヘシ

但鈎網鈎堅間數ノ兩端ニ建設スヘシ

第十四條 第二條ニ掲クル種目外ノ漁魚ヲナサントスルモノハ其漁具ノ形狀寸法用法收益見込等ヲ詳記シ所管郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

但水族蕃殖ニ妨害アリト認ムルハ免許セサルヘシ

第十五條 第一類漁魚上ニ必要ナル附屬漁具ハ第四條ニヨリ該營業出願ノ際其種目員數等ヲ詳記スヘシ若シ不相當ト見認ムルハ使用ヲ差止ムヘシ

第十六條 鈎壺内ニ於テ「タツヘ」「モント」ヲ用ヒ漁魚スルヲ斷サス

第十七條 石潰鹹掛等ノ爲メ水中ニ移投セシ砂礫ハ漁期終ルノ後直ニ陸地ヘ運揚クヘシ

第十八條 都テ毒流ト稱シ石炭山椒皮其他魚毒ヲ用ヒ漁魚スルヲ禁ス

第十九條 採藻泥ハ毎年六七兩月間其業ヲ禁ス

第二十條 漁魚採藻泥ノ爲メ通船ノ航路ヲ妨害スルヲ禁ス尤モ鈎築等免許場所ノ航路ニ係ルモノハ相當ノ船通シヲ設クヘシ

第二十一條 第一類漁業免許場所ハ臨時吏員ヲ派シ検査セシムヘシ

第二十二條 洪水霖雨又ハ其他ノ景況ニ依リ水理ニ妨害アリト認ムルハ既ニ免許セシモノト雖モ臨時漁魚ヲ停止シ漁具ノ取拂ヲ命スルヲアルヘシ

第二十三條 漁業免許ハ其年實地ノ景況ニ依リ漁具魚種漁期漁場等ヲ特ニ制限シ又ハ禁止スルヲアルヘシ

第廿四條 鯉、鮭、鱒ノ四種ニシテ未ダ六寸(曲尺)ニ滿
 タサルモノ及五寸(曲尺)未滿ノ鯉ヲ捕獲スルヲ禁ス
 第廿五條 禁漁場ハ勿論他ノ稼場ヘ立入り漁魚採藻
 泥ヲナスヲ禁ス

但釣網釣ハ元杭ヨリ横巾間數ノ兩端ヲ見通シタ
 ル區域内ヲ稼場トスヘシ尤モ壺ヲ數段ニ設クル
 モノハ順次毎段横巾ノ兩端ヲ見通スヘキモノト
 ス(二十二年縣令第二十號ヲ以テ水
 際元杭トアル水際ノ二字删除)

第廿六條 無免許ニシテ漁魚採藻ヲナン又ハ免許場
 所外ニ於テ私ニ第一類ノ漁魚ヲナスヲ禁ス
 第廿七條 此規則第十三條第二十條及ヒ左ノ各款ニ
 關シテ説諭ノ上尙應セザルモノ又ハ第六條第十條第
 十一條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十
 五條第二十六條ニ違背スルモノハ一日以上三日以
 下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下
 ノ科料ニ處シ尙其事情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ壹
 ケ年以内其業ヲ停止スルコトアルヘシ

一 免許期限ヲ過キ漁具ヲ撤セス若クハ漁具取拂ヲ
 拒ミ又ハ遷延シタルモノ

一 第二十二條第二十三條ニヨリ臨時漁魚ヲ停止シ
 又ハ特ニ制限シタル條件ニ違背シタルモノ

目標離形
 何郡何村地先字何々
 川上何間 稼人何村
 整何間(或ハ)幾坪又ハ互リ何間 何某
 横何間(或ハ)幾坪又ハ互リ何間 川下何間

裏面ノ二方モ如斯記スヘシ
 鯉、鮭、外三種ノ魚類寸法ニ據リ賣買ノ禁令

別冊
 釣、網、釣、網、釣、網、免、許、個、所
 釣、網、釣、網、釣、網、免、許、個、所

